

## Ⅱ-2

平成 23 年度

### 静岡県立美術館評価業務 報告書

---

- 1 概要
- 2 美術館評価指標の現状値
- 3 展覧会 アンケート
- 4 レストラン アンケート
- 5 ミュージアム・ショップ アンケート
- 6 県立美術館ホームページ アンケート
- 7 静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップ  
に向けて

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年 3 月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケート調査を実施した。

### (2) 実施概要

	小谷元彦 幽体の知覚展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜 —祈りと風景
会期	平成 23 年 5 月 28 日 ～7 月 10 日	平成 23 年 7 月 19 日 ～9 月 8 日	平成 23 年 10 月 22 日 ～12 月 4 日
開催日数	38 日	46 日	38 日
観覧者数	10,904 人	15,368 人	24,140 人
1 日あたり平均観覧者数	286.9 人／日	334.1 人／日	635.3 人／日
アンケート実施日	6/3 (金) 23 件	7/22 (金) 28 件	10/26 (月) 35 件
	6/5 (日) 73 件	7/23 (土) 43 件	11/ 4 (金) 33 件
	6/9 (木) 24 件	8/4 (木) 46 件	11/ 6 (日) 49 件
	6/15 (水) 37 件	8/7 (日) 43 件	11/12 (土) 41 件
	6/18 (土) 52 件	8/20 (土) 32 件	11/17 (木) 40 件
	6/25 (土) 40 件	8/24 (水) 32 件	11/23 (水祝) 42 件
アンケート実施数	249 件	224 件	240 件
アンケート実施率(回収率) ※観覧者数に占める実施の割合	2.28%	1.46%	0.99%

### (3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。

#### (4) 結果概要

	小谷元彦 幽体の知覚展		芸術の花開く都市展		京都千年の美の系譜 —祈りと風景
①展覧会満足度（展覧会別）	90.0%		90.0%		89.9%
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
②展覧会満足度（経年）	92.3%	89.9%	86.8%	90.8%	90.8%
③レストラン満足度	61.7%	54.5%	68.8%	53.8%	71.3%
④ミュージアム・ショップ満足度	76.9%	80.6%	84.4%	85.6%	86.8%
⑤ホームページ満足度	70.0%	74.3%	71.9%	74.3%	71.7%

#### (5) 提言

##### 満足度と評価の相関

問	B (1)	B (2)	B (3)	B (5)	B (6)
評価	作品やテーマ についての興味・関心	展覧会会場の 心地よさ	美術館のスタ ッフの対応	当美術館に関 する情報入手 のしやすさ	交通機関の利 用はスムーズ さ
相関係数	0.518	0.504	0.352	0.269	0.244

※算出方法：展覧会の評価【B (1)～(7)（(4)は除く）】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし、無回答については「どちらともいえない（3点）」と換算した。

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。(0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、

B (1) 作品やテーマについての興味関心

B (2) 展覧会会場の心地よさ

B (3) この展覧会の事を勧めたいか

の3つであった。

これらのうち、「作品やテーマについての興味関心」及び「展覧会会場の心地よさ」について自由回答（B (10) 展覧会や美術館へのご指摘・ご意見）より質的データを吸い上げ、満足度向上のための効果的な改善点を導き出す。分類と性質に分けて整理した自由意見（下記表）のうち、「作品やテーマについての興味関心」については“2-B：企画全般への要望”及び“3-B：展示方法への要望”から、「展覧会会場の心地よさ」については、“4-B：施設・環境への要望”及び“4-C：施設・環境への苦情”から多くみられたものを抜粋する。

### 自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情												
小谷元彦 幽体の知覚展	31	1	0	1	20	1	4	6	5	6	3	5	3	3	3
芸術の花開く都市展	11	0	3	4	14	1	0	4	2	5	4	16	0	6	2
京都千年の美の系譜 —祈りと風景	11	1	4	2	8	1	0	9	3	3	2	5	1	9	5
全体	53	2	7	7	42	3	4	19	10	14	9	26	4	18	10

単位：件

#### ①作品やテーマについての興味関心に関わるご意見（2-B、3-Bより）

#### 現代美術への興味関心多数

- こういう現代美術の展覧会も増やしてほしいです。【女性／13～19歳】
- 現代美術（現在活躍している）作家が観たい。ある一定レベル以上のもの。【男性／40歳代】
- アーティストトークに参加できて、本当によかったです。現代美術の展示を今後も時々やっていたら、遠方からの来館者も増えると思うし、若い人も来られると思う。【女性／40歳代】
- 素敵な展示でした。また観たいです。現代アートをもっとやってください。【女性／20歳代】

#### 作品解説の工夫や充実への要望多数

- 解説をもう少し充実させてほしいです。美術館は好きだけど、知識はあまりないので。【女性／30歳代】
- 音声ガイドの説明の絵の数を全部入れていただければ、もっと多くの人が観賞できると思います。【男性／70歳以上】
- もう少し、一般向けの説明・美術史的なものだけでなく、気軽に読める説明があれば、“ちょっと興味のある友人”を連れてきやすいと思います。【女性／30歳代】
- 説明文がもう少ししていねいとわかりやすいかな、と思いました。特に「書」類は何が書いてあるのかさっぱり謎で……。【女性／50歳代】
- 展示の和歌などの文字は私ども一般市民にはもう読めないものです。是非、現代の文字にして解説を。【男性／60歳代】

#### ②展覧会会場の心地よさに関わるご意見（4-B、4-Cより）

#### 館内の椅子について

- 熱心に見ると疲れるので、もう少し椅子の設置やくつろげる場所があるとありがたい。【女

性／50 歳代】

## 館内の温度について

- ▶ 寒いです。【女性／30 歳代】
- ▶ 少々、温度が低かったと思います。【男性／40 歳代】
- ▶ 美術館の中がとても寒いです。仕方がないと思いますが。【女性／40 歳代】

## 駐車場について

- ▶ 上の駐車場が狭いので、もっと広いといいと思う。【女性／60 歳代】
- ▶ 歳のせいで駐車場が遠く感じます。【男性／60 歳代】
- ▶ 駐車場が遠い。日影が少ない。【女性／40 歳代】

## 2 美術館評価指標の現状値

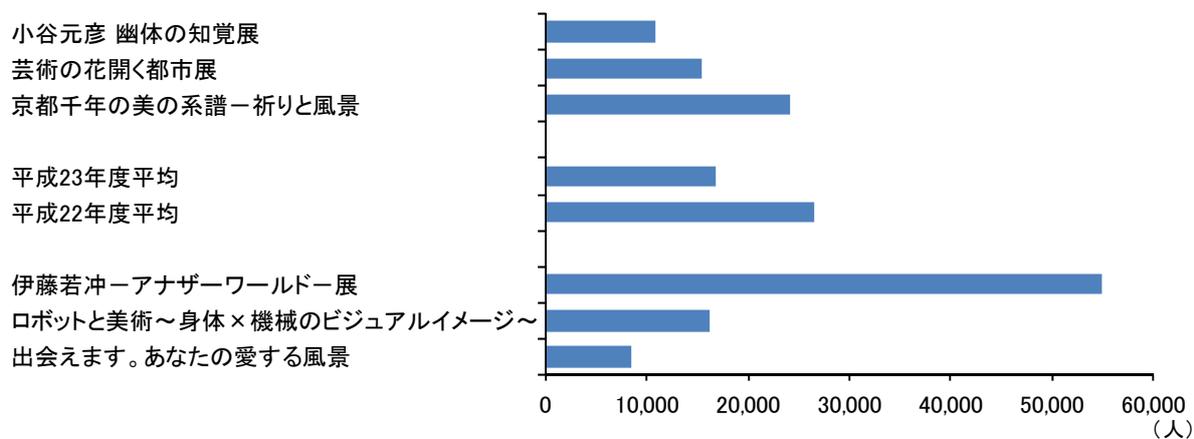
			H22 実績	H23 実績	展覧会			
					A※	B※	C※	
A	2	展覧会リピート率	78.5%	84.3%	79.6%	83.9%	89.6%	
	3	展覧会満足度	90.8%	90.8%	92.3%	90.0%	89.9%	
	8	観賞環境満足度	89.8%	90.4%	89.1%	92.3%	90.0%	
B	23	風景美術館認知度	22.6%	32.2%	30.0%	34.3%	32.5%	
C	25	情報が「入手しやすい」	69.4%	70.6%	69.6%	66.8%	74.9%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	75.8%	81.8%	80.0%	81.8%	85.8%	
	27	自家用車アクセス満足度	72.0%	69.2%	71.5%	65.2%	75.0%	
	29	スタッフ対応満足度	79.6%	85.8%	88.7%	84.7%	84.0%	
	34	レストラン満足度	53.8%	71.3%				
	36	ミュージアム・ショップ満足度	85.6%	86.8%				
D	46	ホームページ満足度	74.3%	71.7%				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	21.5%	15.7%	20.5%	16.1%	10.4%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	90.0%	92.8%	90.0%	94.5%	96.0%	
	53	地域別利用者割合	東部	15.6%	17.4%	13.0%	19.3%	20.1%
			中部	54.9%	56.4%	55.2%	55.5%	58.2%
			西部	15.2%	15.9%	17.2%	15.1%	15.5%
			県外	14.3%	10.3%	14.6%	10.1%	6.3%
54	2・3世代観覧割合	26.5%	22.8%	15.9%	29.8%	23.1%		

※) 展覧会 A . . . . . 小谷元彦幽体の知覚展  
 展覧会 B . . . . . 芸術の花開く都市展  
 展覧会 C . . . . . 京都千年の美の系譜－祈りと風景

### 3 展覧会アンケート結果

#### (1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	10,904	249	2.3
	芸術の花開く都市展	15,368	224	1.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24,140	240	1.0
経 年	平成 23 年度平均	16,804	238	1.4
	平成 22 年度平均	26,517	265	1.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	54,937	338	0.6
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	16,197	275	1.7
	出会えます。 あなたの愛する風景	8,417	181	2.2



(2) 観覧者の属性

①性別

全体

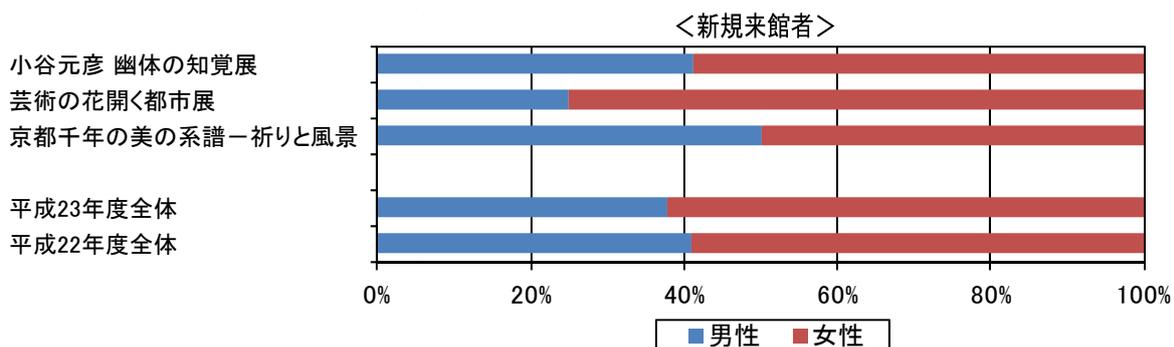
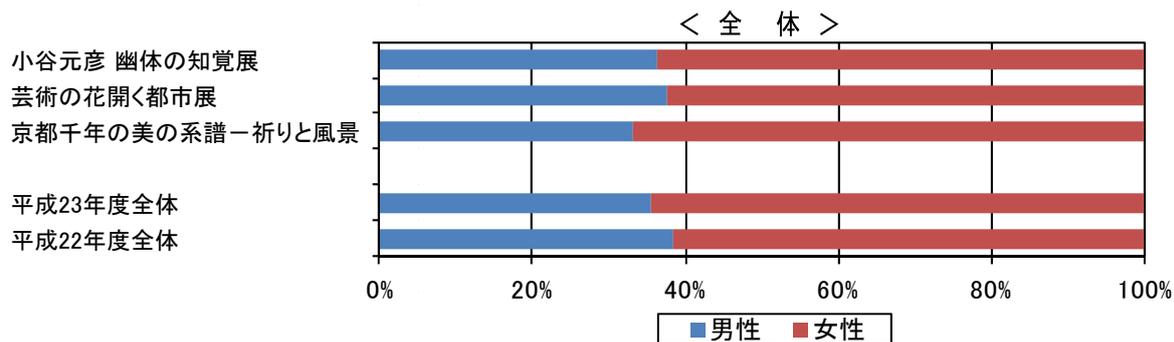
		件数 (件)	男性	女性
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	36.3	63.7
	芸術の花開く都市展	221	37.6	62.4
	京都千年の美の系譜 ー 祈りと風景	239	33.1	66.9
経 年	平成 23 年度全体		35.6	64.4
	平成 22 年度全体		38.5	61.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	332	31.9	68.1
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	51.8	48.2
	出会えます。 あなたの愛する風景	179	31.8	68.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	男性	女性
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	41.2	58.8
	芸術の花開く都市展	36	25.0	75.0
	京都千年の美の系譜 ー 祈りと風景	24	50.0	50.0
経 年	平成 23 年度全体		37.8	62.2
	平成 22 年度全体		40.9	59.1
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	34.6	65.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	63.0	37.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	25.0	75.0

単位：%



〈全体〉を見ると、平成23年度全体は、「男性」が35.6%、「女性」が64.4%と、例年通り女性が多い傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、『芸術の花開く都市展』では「女性」(75.0%)が通常より多く、『京都千年の美の系譜—祈りと風景』では「男性」(50.0%)が通常より多くなっている。

②年齢層

全体

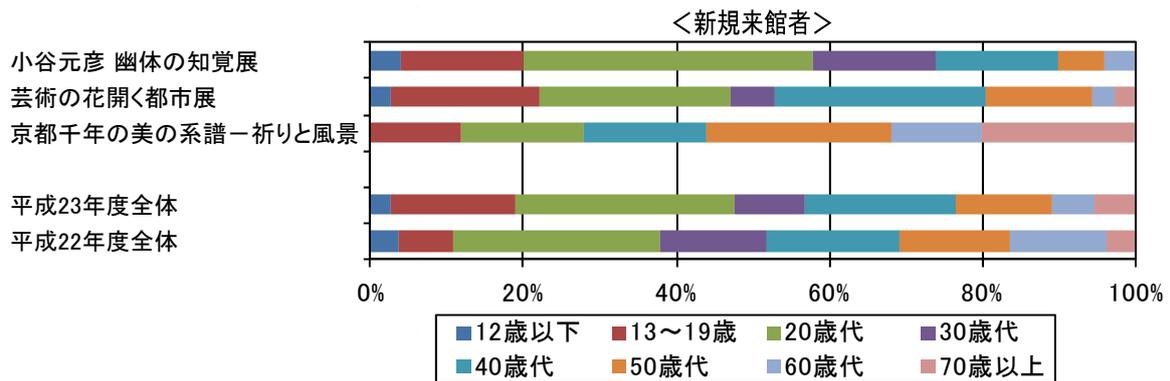
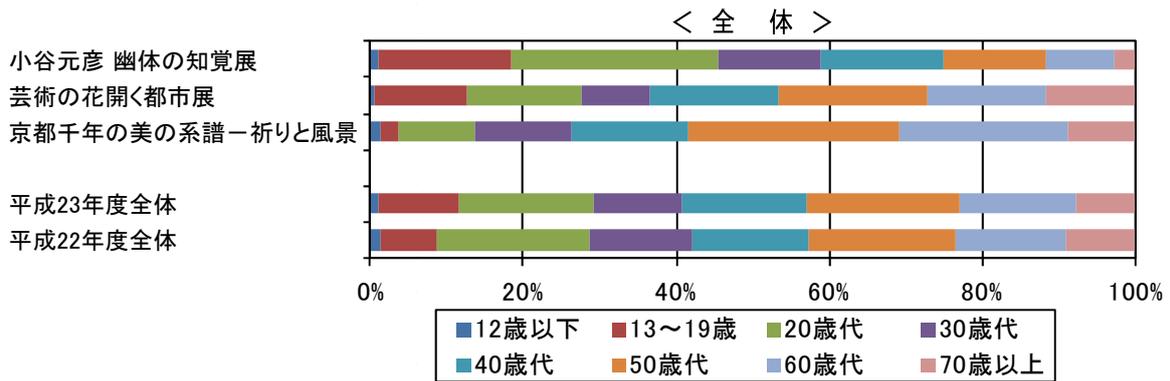
		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	1.2	17.3	27.0	13.3	16.1	13.3	8.9	2.8
	芸術の花開く都市展	221	0.5	12.2	14.9	9.0	16.7	19.5	15.4	11.8
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	240	1.3	2.5	10.0	12.5	15.4	27.5	22.1	8.8
経 年	平成 23 年度全体		1.0	10.7	17.5	11.7	16.1	20.0	15.4	7.6
	平成 22 年度全体		1.3	7.4	19.9	13.5	15.2	19.3	14.5	8.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	2.1	5.7	11.1	14.7	12.3	22.5	22.8	9.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	273	1.1	9.2	32.6	18.7	18.3	13.2	3.7	3.3
	あなたの愛する風景	180	0.6	7.2	16.1	7.2	15.0	22.2	17.2	14.4

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	4.0	16.0	38.0	16.0	16.0	6.0	4.0	0.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	19.4	25.0	5.6	27.8	13.9	2.8	2.8
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	12.0	16.0	0.0	16.0	24.0	12.0	20.0
経 年	平成 23 年度全体		2.7	16.2	28.8	9.0	19.8	12.6	5.4	5.4
	平成 22 年度全体		3.8	7.1	27.0	13.8	17.6	14.3	12.6	3.8
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	5.1	10.3	15.4	15.4	17.9	17.9	11.5	6.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	81	1.2	6.2	40.7	21.0	19.8	9.9	1.2	0.0
	あなたの愛する風景	20	5.0	5.0	25.0	5.0	15.0	15.0	25.0	5.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度で最も多い年代は「50歳代」の20.0%となっている。『小谷元彦 幽体の知覚展』は他の展覧会と比べて「20歳代」(27.0%)が多く、また、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』は「50歳代」(27.5%)が多いという特長がそれぞれみられる。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度で最も多い年代は「20歳代」の28.8%で、〈全体〉とは異なる傾向となっている。展覧会別でみると、特に『小谷元彦 幽体の知覚展』で「20歳代」(38.0%)の新規来館者が多い。

③居住地

全体

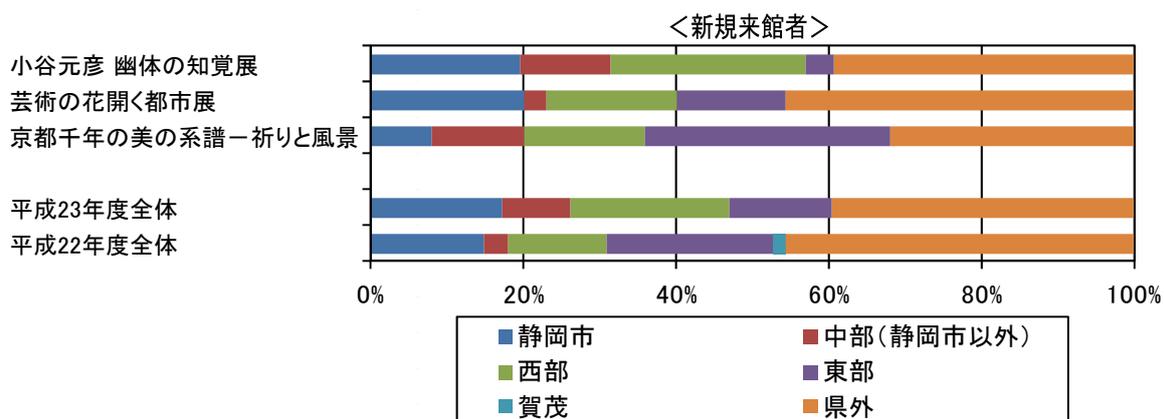
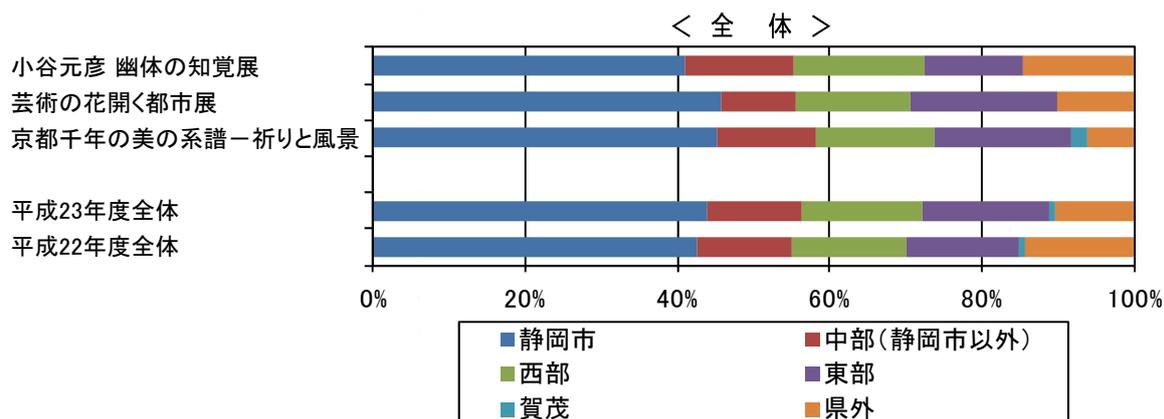
		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県 外
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	239	41.0	14.2	17.2	13.0	0.0	14.6
	芸術の花開く都市展	218	45.9	9.6	15.1	19.3	0.0	10.1
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	45.2	13.0	15.5	18.0	2.1	6.3
経 年	平成 23 年度全体		44.0	12.4	15.9	16.7	0.7	10.3
	平成 22 年度全体		42.7	12.2	15.2	14.8	0.8	14.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	326	35.3	13.2	17.2	16.6	0.6	17.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	270	44.8	13.7	13.0	11.9	0.0	16.7
	出会えます。 あなたの愛する風景	175	48.0	9.7	15.4	16.0	1.7	9.1

単位: %

新規来館者

		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県 外
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	19.6	11.8	25.5	3.9	0.0	39.2
	芸術の花開く都市展	35	20.0	2.9	17.1	14.3	0.0	45.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	8.0	12.0	16.0	32.0	0.0	32.0
経 年	平成 23 年度全体		17.1	9.0	20.7	13.5	0.0	39.6
	平成 22 年度全体		14.7	3.4	12.8	21.9	1.7	45.6
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	77	10.4	2.6	20.8	22.1	0.0	44.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	80	18.8	7.5	12.5	13.8	0.0	47.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	15.0	0.0	5.0	30.0	5.0	45.0

単位: %



〈全体〉をみると、「静岡市」が44.0%と最も多く4割以上を占め、「中部(静岡市以外)」(12.4%)、「西部」(15.9%)、「東部」(16.7%)はそれぞれ1割台と、例年同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると〈全体〉に比べて「県外」来館者が多い傾向となっている。また、平成23年度は前年度に比べて「中部(静岡市以外)」及び「西部」からの来館者数が増加している。

### 美術館カルテ 53 地域別の利用者の割合

		中部	西部	東部
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	55.2	17.2	13.0
	芸術の花開く都市展	55.5	15.1	19.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	58.2	15.5	20.1
経年	平成23年度全体	56.4	15.9	17.4
	平成22年度全体	54.9	15.2	15.6
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	48.5	17.2	17.2
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	58.5	13.0	11.9
	出会えます。あなたの愛する風景	57.7	15.4	17.7

単位：%

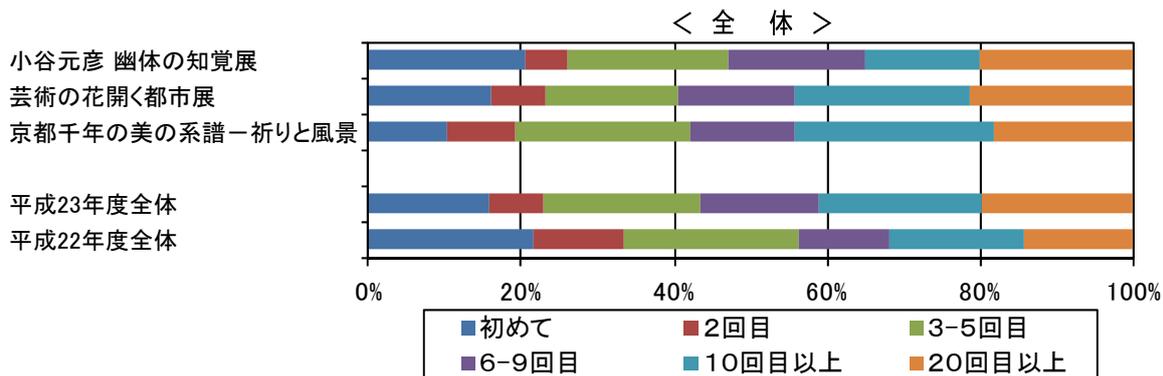
(3) 観覧者行動

①来館回数

全体

		件数 (件)	初 め て	2 回 目	3 - 5 回 目	6 - 9 回 目	上 1 0 回 目 以	上 2 0 回 目 以
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	249	20.5	5.6	20.9	18.1	14.9	20.1
	芸術の花開く都市展	224	16.1	7.1	17.4	15.2	22.8	21.4
	京都千年の美の系譜 - 祈りと風景	240	10.4	8.8	22.9	13.8	25.8	18.3
経 年	平成 23 年度全体		15.7	7.2	20.5	15.7	21.0	19.9
	平成 22 年度全体		21.5	11.9	22.9	12.0	17.5	14.3
平成 22 年 度	伊藤若冲 - アナザーワールド- 展	333	23.7	12.3	16.8	13.8	19.8	13.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	29.5	12.7	23.3	10.9	13.8	9.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	179	11.2	10.6	28.5	11.2	19.0	19.6

単位: %



平成 23 年の「初めて」（新規来館者）は 15.7%と、前年度に比べ少なくなっている。展覧会別にみると、「初めて」（新規来館者）が最も多いのは『小谷元彦 幽体の知覚展』の 20.5%、次いで『芸術の花開く都市展』の 16.1%、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が最も少なく 10.4%となっている。

**評価指標 4**      新規来館者の割合

**美術館カルテ 2**      リピート率

		新規来館者の割合	リピート率
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	20.5	79.6
	芸術の花開く都市展	16.1	83.9
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	10.4	89.6
経 年	平成 23 年度全体	15.7	84.3
	平成 22 年度全体	21.5	78.5
平成 22 年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	23.7	76.3
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	29.5	70.5
	出会えます。あなたの愛する風景	11.2	88.8

単位：%

②来館人数

全体

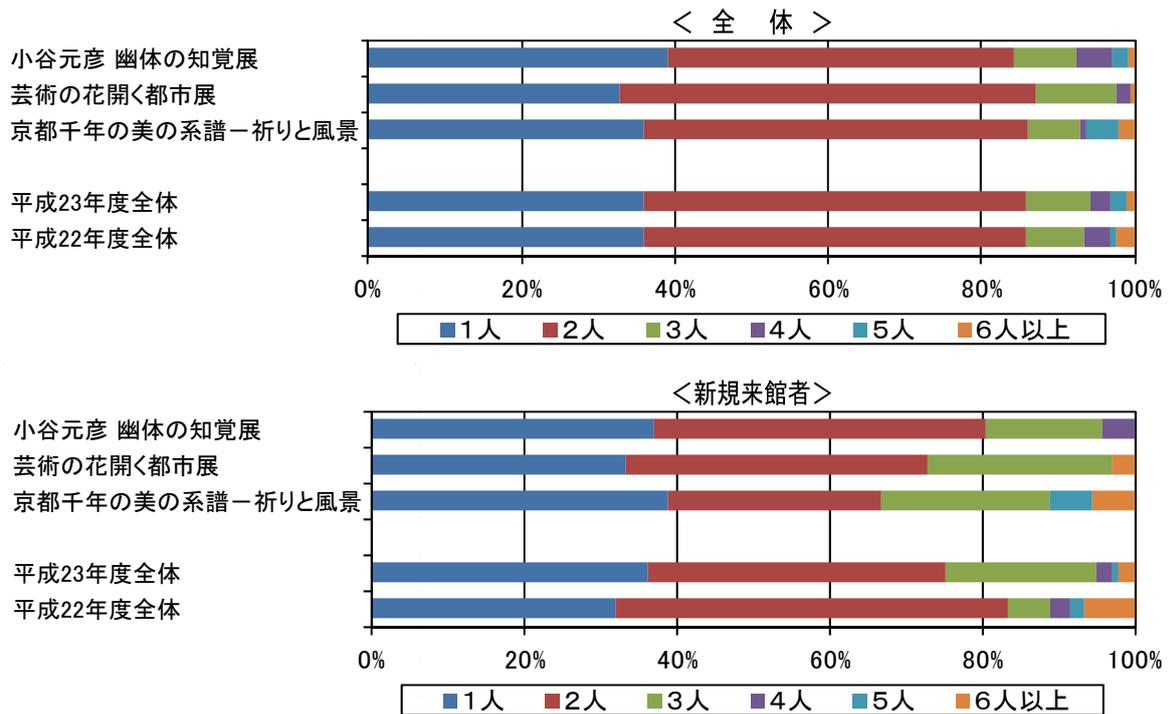
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	236	39.0	45.3	8.1	4.7	2.1	0.8
	芸術の花開く都市展	211	32.7	54.5	10.4	1.9	0.0	0.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	223	35.9	50.2	6.7	0.9	4.0	2.2
経 年	平成 23 年度全体		36.0	49.9	8.4	2.5	2.1	1.2
	平成 22 年度全体		36.1	49.8	7.7	3.3	0.8	2.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	266	32.3	50.8	10.2	4.9	0.0	1.9
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	260	37.7	43.8	10.0	3.8	2.3	2.3
	あなたの愛する風景	173	38.2	54.9	2.9	1.2	0.0	2.9

単位: %

新規来館者

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	46	37.0	43.5	15.2	4.3	0.0	0.0
	芸術の花開く都市展	33	33.3	39.4	24.2	0.0	0.0	3.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	18	38.9	27.8	22.2	0.0	5.6	5.6
経 年	平成 23 年度全体		36.1	39.2	19.6	2.1	1.0	2.1
	平成 22 年度全体		32.0	51.4	5.6	2.6	1.8	6.7
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	62	27.4	50.0	11.3	6.5	0.0	4.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	74	35.1	48.6	5.4	1.4	5.4	4.1
	あなたの愛する風景	18	33.3	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1

単位: %



〈全体〉をみると、平成23年度は「2人」が49.9%と最も多く、次いで「1人」が36.0%、「3人」が8.4%とこれらが合わせて9割以上を占め、前年度と同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、「2人」(39.2%)と「1人」(36.1%)がほぼ同様となっており、「3人」の19.6%は〈全体〉に比べて多くなっている。

③来館時の同伴者

全体

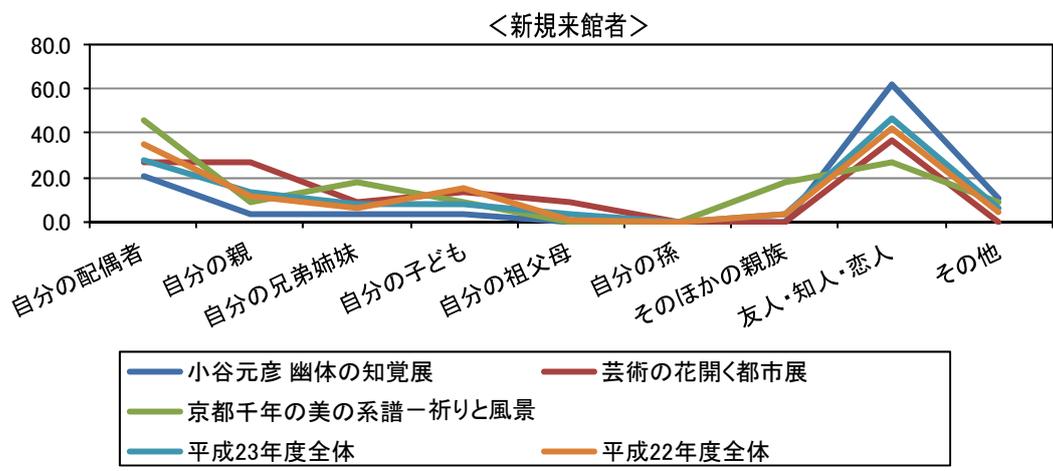
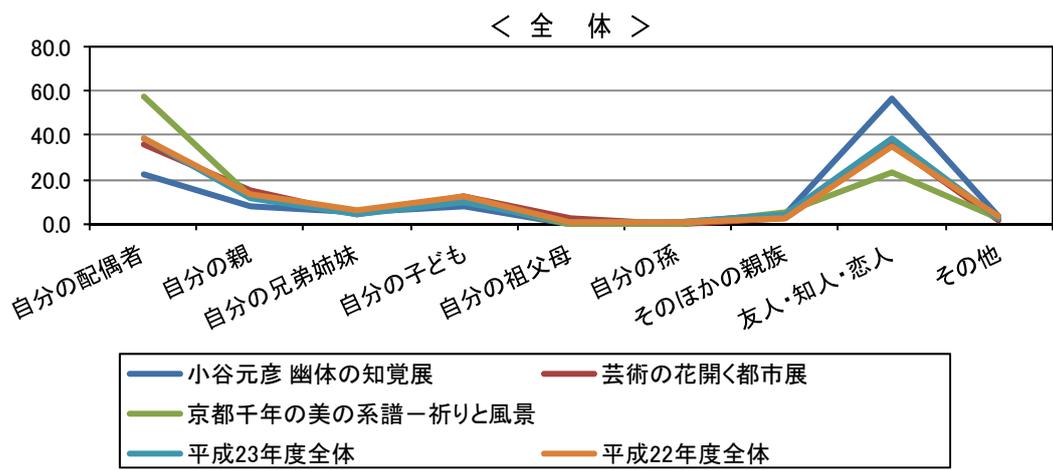
		件数 (件)	者 自 分の 配 偶	自 分 の 親	姉 妹 自 分 の 兄 弟	も 自 分 の 子 ど	母 自 分 の 祖 父	自 分 の 孫	親 族 そ の ほ か の	恋 人 友 人 ・ 知 人 ・	そ の 他
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	144	22.2	7.6	5.6	7.6	0.0	0.7	4.2	56.3	3.5
	芸術の花開く都市展	141	36.2	14.9	4.3	12.1	2.8	0.0	2.8	35.5	1.4
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	143	57.3	12.6	4.2	10.5	0.0	0.0	4.9	23.1	2.1
経 年	平成 23 年度全体		38.6	11.7	4.7	10.0	0.9	0.2	4.0	38.3	2.3
	平成 22 年度全体		38.2	13.2	5.9	12.2	0.9	0.2	2.7	35.1	3.1
平成 22 年 度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	179	49.2	15.6	6.7	11.7	1.7	0.0	3.9	22.9	2.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	157	21.7	14.6	6.4	14.6	0.0	0.6	1.3	49.7	3.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	107	43.9	9.3	4.7	10.3	0.9	0.0	2.8	32.7	2.8

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	者 自 分の 配 偶	自 分 の 親	姉 妹 自 分 の 兄 弟	も 自 分 の 子 ど	母 自 分 の 祖 父	自 分 の 孫	親 族 そ の ほ か の	恋 人 友 人 ・ 知 人 ・	そ の 他
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	29	20.7	3.4	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	62.1	10.3
	芸術の花開く都市展	22	27.3	27.3	9.1	13.6	9.1	0.0	0.0	36.4	0.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	11	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	18.2	27.3	9.1
経 年	平成 23 年度全体		27.4	12.9	8.1	8.1	3.2	0.0	3.2	46.8	6.5
	平成 22 年度全体		35.2	11.4	5.7	14.9	0.7	0.0	3.7	42.3	4.4
平成 22 年 度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	45	42.2	11.1	8.9	11.1	2.2	0.0	11.1	22.2	6.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	46	21.7	6.5	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	63.0	6.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	12	41.7	16.7	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	41.7	0.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成 23 年度は「自分の配偶者」が 38.6%、「友人・知人・恋人」が 38.3%とこれらが前年度と同じく多数を占めている。『小谷元彦 幽体の知覚展』では、「友人・知人・恋人」(56.3%)が、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』では「自分の配偶者」(57.3%)が、他の展覧会と比較して特に多くなっている。

〈新規来館者〉をみると、〈全体〉に比べて同伴者に展覧会によるばらつきがみられる。特に、『芸術の花開く都市展』では、他の展覧会に比べて「自分の親」が多くなっている。

**美術館カルテ 54** 2・3世代で一緒に観覧に来ている割合

平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	15.9
	芸術の花開く都市展	29.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	23.1
経 年	平成 23 年度全体	22.8
	平成 22 年度全体	26.5
平成 22 年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	29.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	29.9
	出会えます。あなたの愛する風景	20.6

単位：%

④来館のきっかけ

全体

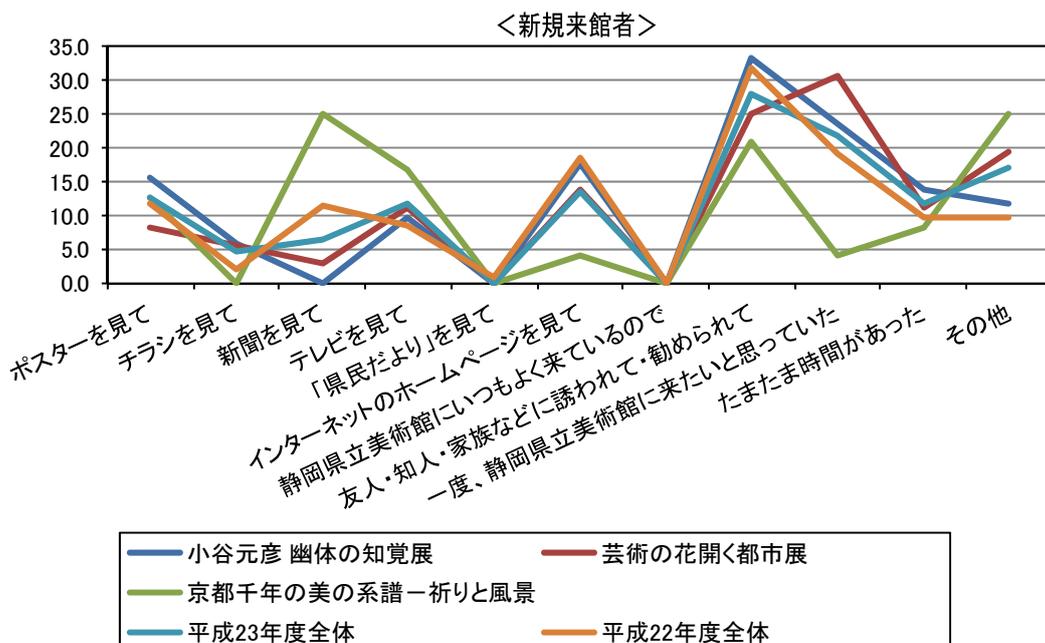
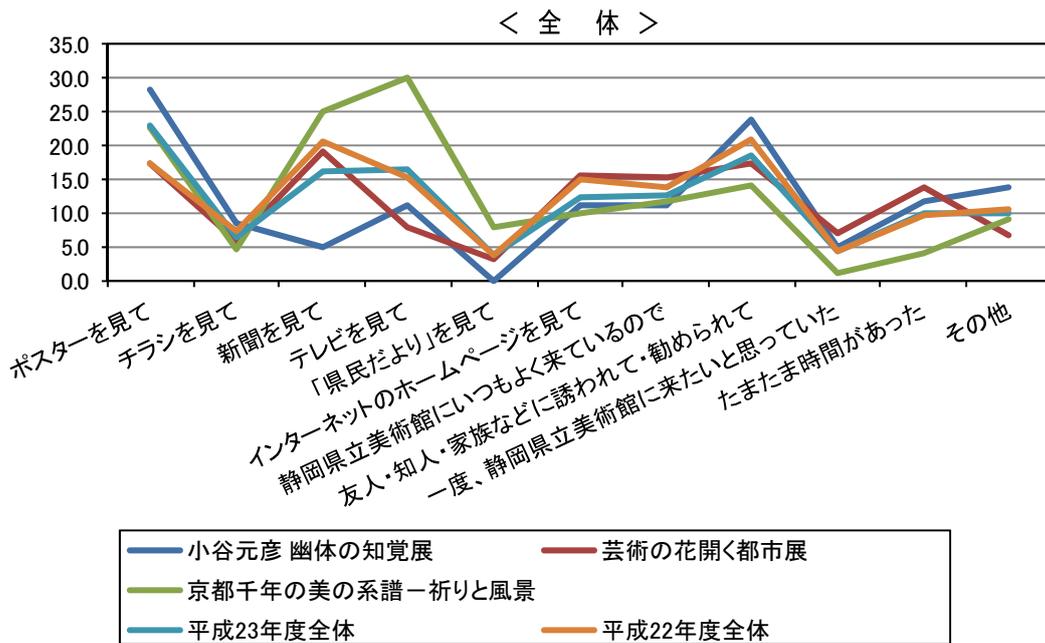
		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	誘われて・勧められて	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館にきたいと思っていた	たまたま時間があつた	その他
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	28.2	8.5	4.8	11.3	0.0	11.3	11.3	23.8	4.8	11.7	13.7	
	芸術の花開く都市展	224	17.4	5.8	19.2	8.0	3.1	15.6	15.2	17.4	7.1	13.8	6.7	
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	22.6	4.6	25.1	30.1	7.9	10.0	11.7	14.2	1.3	4.2	9.2	
経年	平成23年度全体		22.9	6.3	16.2	16.6	3.7	12.2	12.7	18.6	4.4	9.8	10.0	
	平成22年度全体		17.4	7.3	20.7	15.3	3.7	15.1	13.7	20.8	4.3	9.8	10.7	
平成22年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	18.9	5.4	28.2	34.5	6.6	12.9	9.3	21.6	4.2	3.6	7.8	
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	19.0	8.8	21.5	5.1	2.9	21.2	8.4	20.8	4.7	9.1	13.9	
	出会えます。 あなたの愛する風景	180	14.4	7.8	12.2	6.1	1.7	11.1	23.3	20.0	3.9	16.7	10.6	

単位:%

新規来館者

		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	誘われて・勧められて	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館にきたいと思っていた	たまたま時間があつた	その他
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	15.7	5.9	0.0	9.8	0.0	17.6	0.0	33.3	23.5	13.7	11.8	
	芸術の花開く都市展	36	8.3	5.6	2.8	11.1	0.0	13.9	0.0	25.0	30.6	11.1	19.4	
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24	12.5	0.0	25.0	16.7	0.0	4.2	0.0	20.8	4.2	8.3	25.0	
経年	平成23年度全体		12.6	4.5	6.3	11.7	0.0	13.5	0.0	27.9	21.6	11.7	17.1	
	平成22年度全体		11.7	2.1	11.4	8.5	0.9	18.4	0.0	31.8	19.2	9.6	9.6	
平成22年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	11.5	3.8	20.5	23.1	2.6	20.5	0.0	24.4	15.4	1.3	10.3	
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	8.6	2.5	13.6	2.5	0.0	29.6	0.0	25.9	12.3	7.4	13.6	
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	45.0	30.0	20.0	5.0	

単位:%



〈全体〉をみると、平成23年度は「ポスターを見て」が22.9%と最も多い。展覧会別でみると、『小谷元彦 幽体の知覚展』は「ポスターを見て」(28.2%)が、『芸術の花開く都市展』は「新聞を見て」(19.2%)が、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』は「テレビを見て」(30.1%)がそれぞれ最も多く、異なる傾向となっている。特に、「新聞を見て」及び「テレビを見て」は展覧会により差が大きく、情報源メディアの効果に差が出る結果となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は「知人・友人・家族などに誘われて・勧められて」が27.9%と最も多くなっている。展覧会別でみると、「知人・友人・家族などに誘われて・勧められて」が特に多いのは『小谷元彦 幽体の知覚展』(33.3%)で、「新聞を見て」及び「テレビを見て」は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』で他の展覧会と比較して多くなっている。

(4) 展覧会の評価

①作品やテーマについての興味・関心の深まり

全体

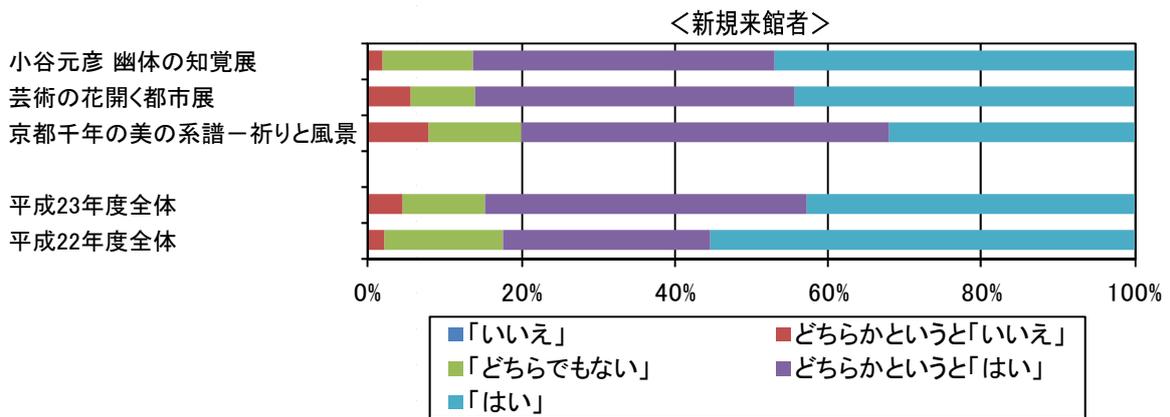
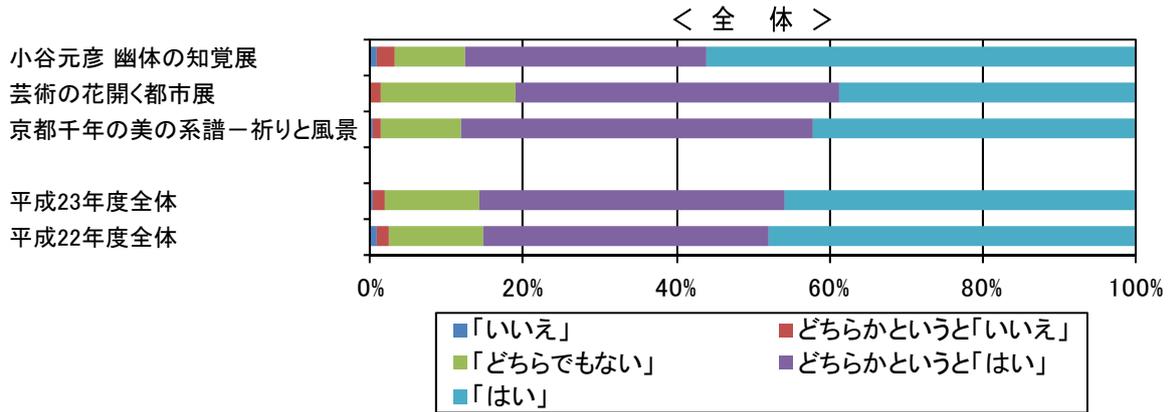
		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	0.8	2.4	9.3	31.5	56.0
	芸術の花開く都市展	222	0.0	1.4	17.6	42.3	38.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	238	0.4	0.8	10.5	46.2	42.0
経 年	平成 23 年度全体		0.4	1.6	12.3	39.8	45.9
	平成 22 年度全体		0.7	1.7	12.4	37.3	47.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	0.9	0.9	5.1	29.4	63.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	272	1.1	1.8	15.8	33.1	48.2
	出会えます。 あなたの愛する風景	178	0.0	2.2	16.3	49.4	32.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	0.0	2.0	11.8	39.2	47.1
	芸術の花開く都市展	36	0.0	5.6	8.3	41.7	44.4
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	25	0.0	8.0	12.0	48.0	32.0
経 年	平成 23 年度全体		0.0	4.5	10.7	42.0	42.9
	平成 22 年度全体		0.0	2.1	15.4	27.1	55.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	0.0	1.3	9.0	20.5	69.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	0.0	17.3	30.9	51.9
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	20.0	30.0	45.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.7%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の88.2%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が87.5%、『芸術の花開く都市展』が81.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が84.9%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

### 評価指標3 作品やテーマに興味を持った人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	87.5
	芸術の花開く都市展	81.0
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	88.2
経年	平成23年度全体	85.7
	平成22年度全体	85.2
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	93.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	81.3
	出会えます。あなたの愛する風景	81.4

単位：%

②展覧会の会場で心地よく観覧できたか

全体

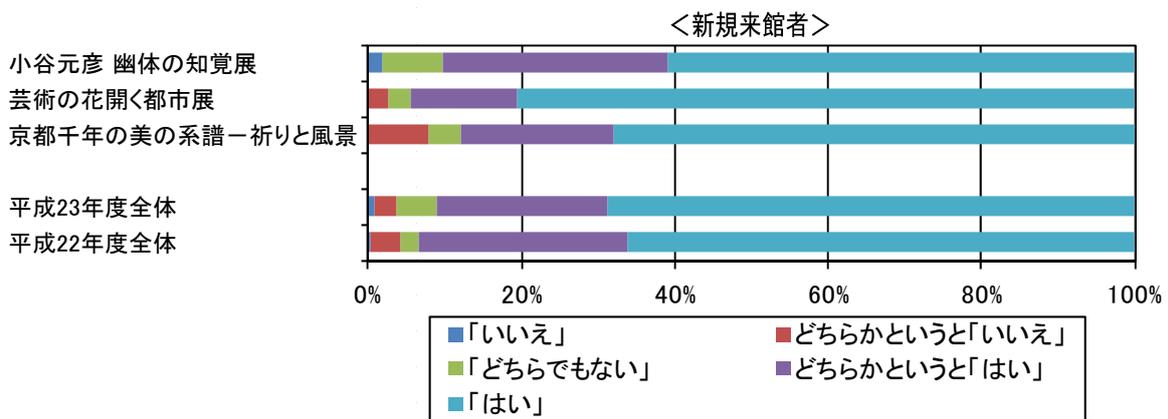
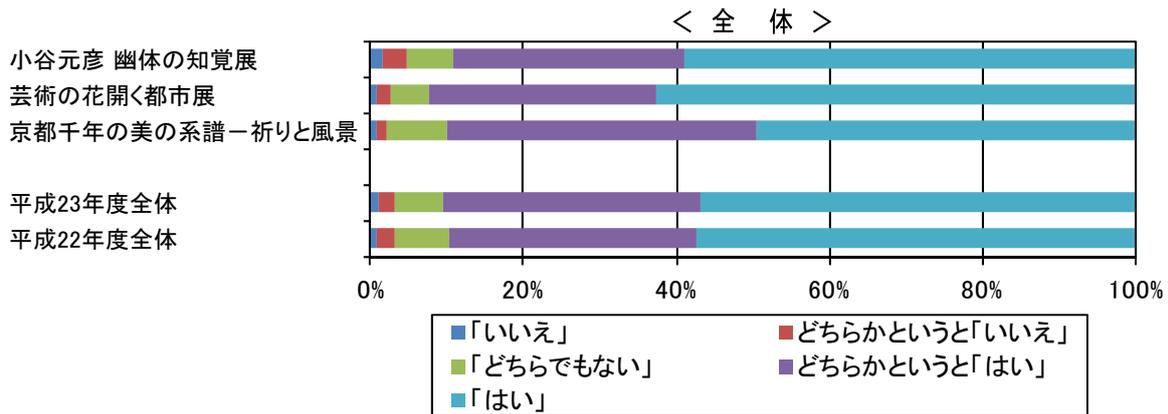
		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	249	1.6	3.2	6.0	30.1	59.0
	芸術の花開く都市展	222	0.9	1.8	5.0	29.7	62.6
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	0.8	1.3	7.9	40.6	49.4
経 年	平成 23 年度全体		1.1	2.1	6.3	33.5	56.9
	平成 22 年度全体		0.8	2.3	7.2	32.3	57.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	1.2	3.3	7.5	30.5	57.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	1.1	2.9	7.3	34.2	54.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.0	0.6	6.8	32.2	60.5

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	2.0	0.0	7.8	29.4	60.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	2.8	13.9	80.6
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	8.0	4.0	20.0	68.0
経 年	平成 23 年度全体		0.9	2.7	5.4	22.3	68.8
	平成 22 年度全体		0.4	3.8	2.5	27.1	66.2
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	1.3	3.8	5.1	23.1	66.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	2.5	2.5	38.3	56.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	0.0	20.0	75.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が90.4%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『芸術の花開く都市展』の92.3%、次いで『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が90.0%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が89.1%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が91.1%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

**美術館カルテ 32 観賞環境に対する満足度**

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	89.1
	芸術の花開く都市展	92.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	90.0
経年	平成23年度全体	90.4
	平成22年度全体	89.8
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	88.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	88.7
	出会えます。あなたの愛する風景	92.7

単位：%

③スタッフ対応は適切であったか

全体

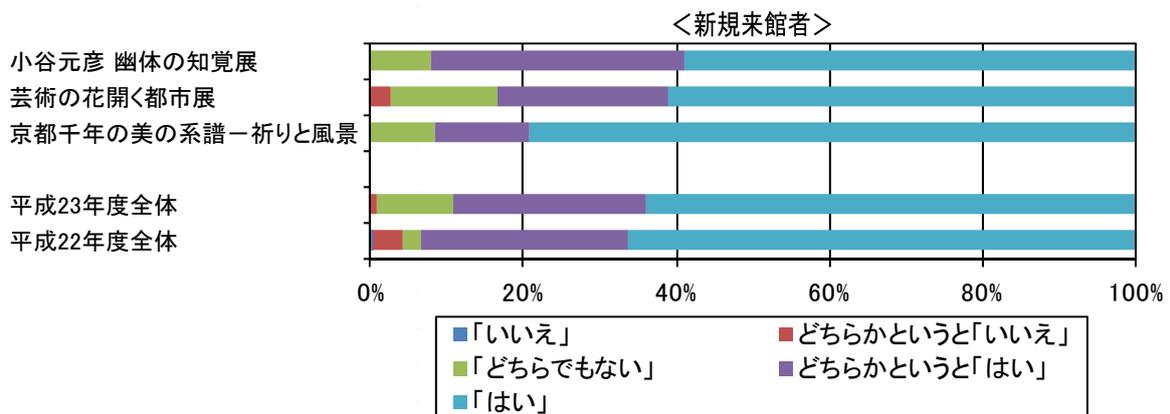
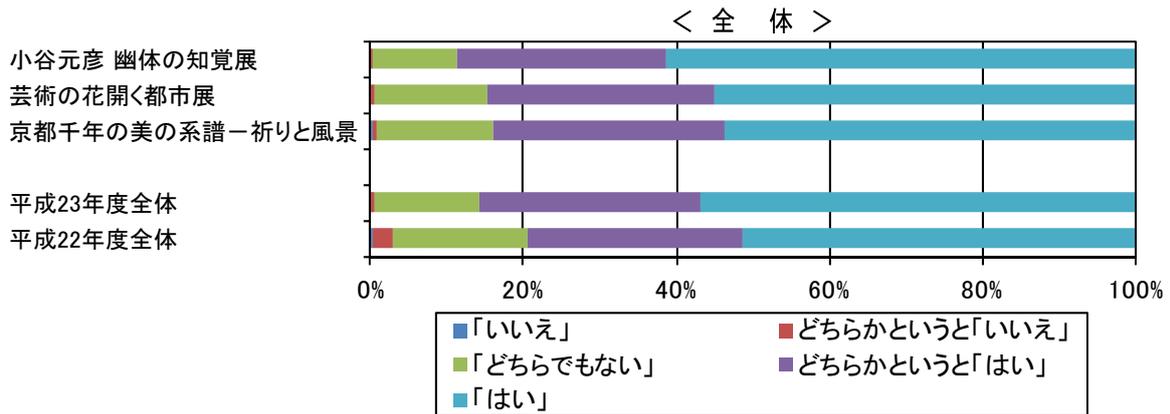
		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	0.0	0.4	10.9	27.4	61.3
	芸術の花開く都市展	222	0.0	0.5	14.9	29.7	55.0
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	237	0.4	0.4	15.2	30.4	53.6
経 年	平成 23 年度全体		0.1	0.4	13.6	29.1	56.7
	平成 22 年度全体		0.2	2.7	17.6	28.1	51.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	0.3	1.5	18.6	25.8	53.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	0.4	3.6	18.2	31.4	46.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.0	2.8	15.8	27.1	54.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	0.0	0.0	7.8	33.3	58.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	13.9	22.2	61.1
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	24	0.0	0.0	8.3	12.5	79.2
経 年	平成 23 年度全体		0.0	0.9	9.9	25.2	64.0
	平成 22 年度全体		0.4	3.8	2.5	27.1	66.2
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	1.3	3.8	5.1	23.1	66.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	2.5	2.5	38.3	56.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	0.0	20.0	75.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『小谷元彦 幽体の知覚展』の88.7%、次いで『芸術の花開く都市展』が84.7%、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が84.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が89.2%と〈全体〉を少し上回っている。

### 美術館カルテ 29 美術館スタッフの対応に満足した人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	88.7
	芸術の花開く都市展	84.7
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	84.0
経年	平成23年度全体	85.8
	平成22年度全体	79.6
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	79.6
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	77.7
	出会えます。あなたの愛する風景	81.4

単位：%

④この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか

全体

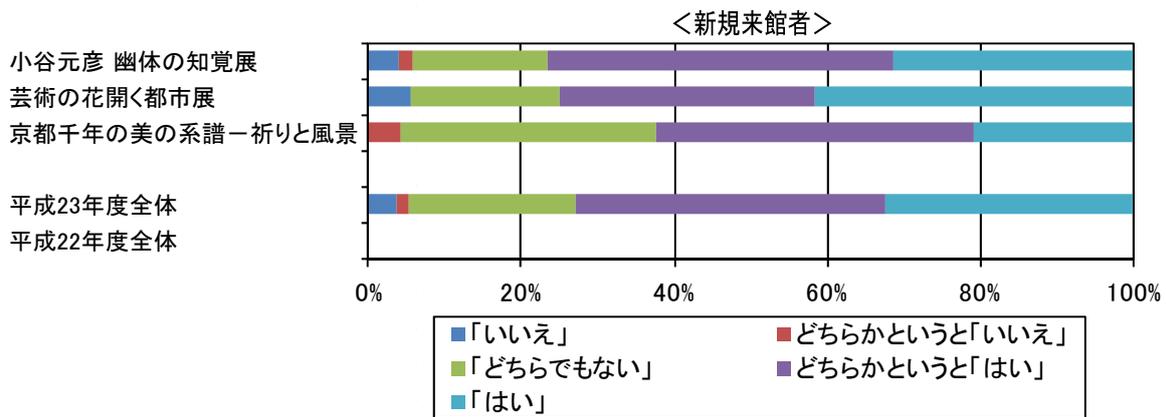
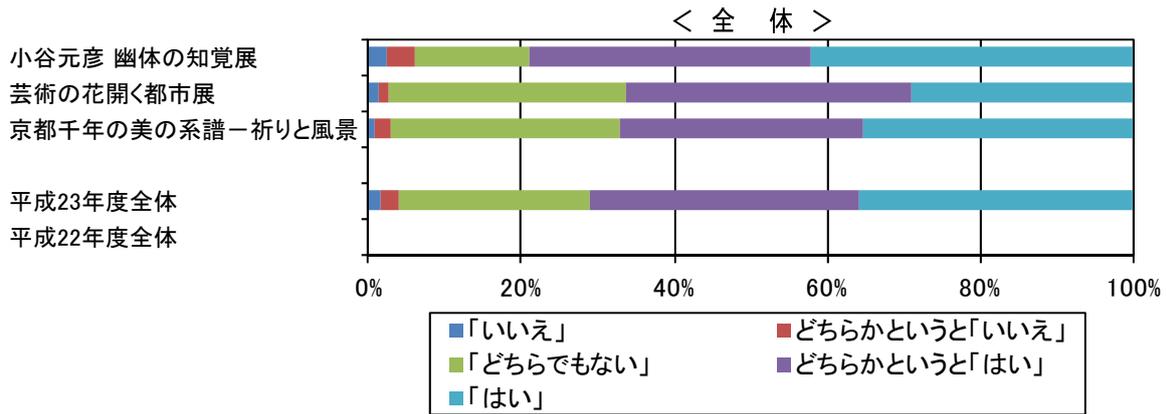
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	247	2.4	3.6	15.0	36.8	42.1
	芸術の花開く都市展	220	1.4	1.4	30.9	37.3	29.1
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	238	0.8	2.1	29.8	31.9	35.3
経 年	平成 23 年度全体		1.6	2.4	25.0	35.3	35.7
	平成 22 年度全体	—	—	—	—	—	—
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	—	—	—	—	—	—
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	—	—	—	—	—	—
	出会えます。 あなたの愛する風景	—	—	—	—	—	—

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	3.9	2.0	17.6	45.1	31.4
	芸術の花開く都市展	36	5.6	0.0	19.4	33.3	41.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24	0.0	4.2	33.3	41.7	20.8
経 年	平成 23 年度全体		3.6	1.8	21.6	40.5	32.4
	平成 22 年度全体	—	—	—	—	—	—
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	—	—	—	—	—	—
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	—	—	—	—	—	—
	出会えます。 あなたの愛する風景	—	—	—	—	—	—

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が71.0%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『小谷元彦 幽体の知覚展』の78.9%、次いで『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が67.2%、『芸術の花開く都市展』が66.4%と、『小谷元彦 幽体の知覚展』が特に高い評価となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が72.9%と〈全体〉とほぼ同様となっている。

⑤当美術館に関する情報は入手しやすいか

全体

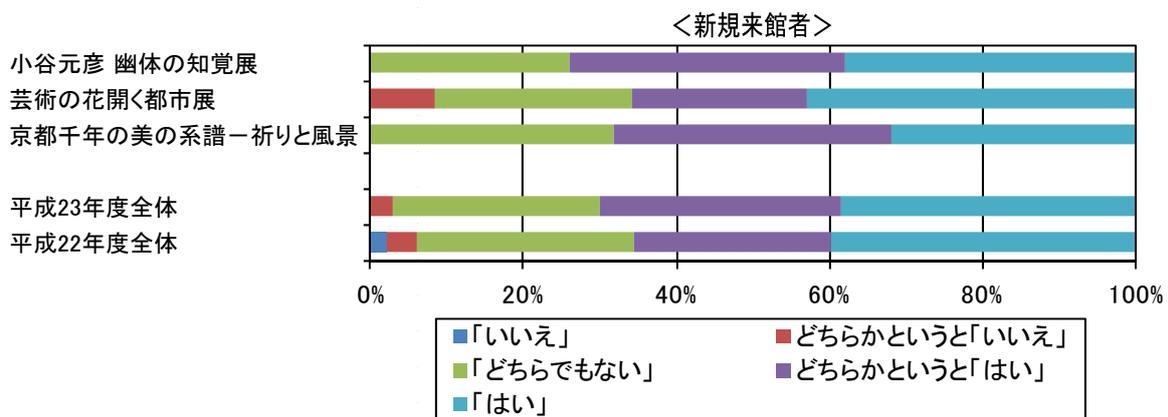
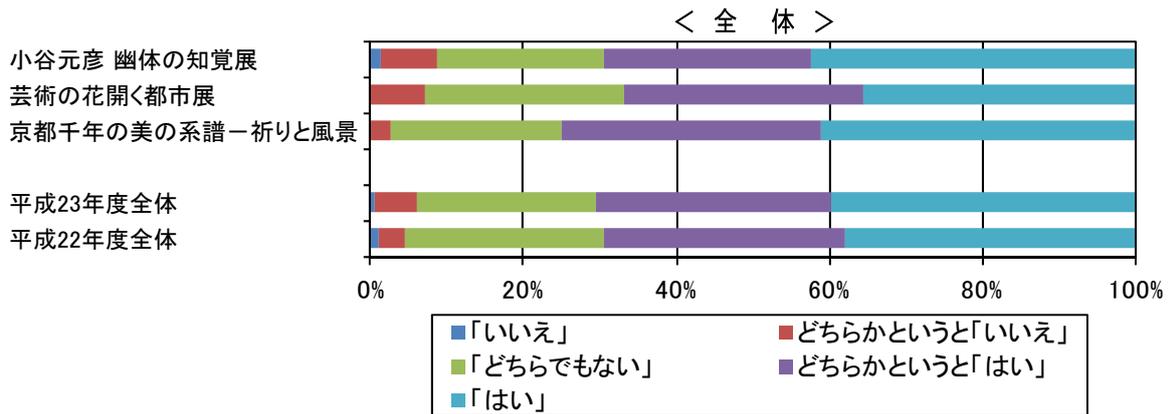
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	243	1.2	7.4	21.8	27.2	42.4
	芸術の花開く都市展	211	0.0	7.1	26.1	31.3	35.5
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	231	0.0	2.6	22.5	33.8	41.1
経 年	平成 23 年度全体		0.4	5.7	23.4	30.7	39.9
	平成 22 年度全体		1.1	3.5	26.0	31.4	38.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	310	0.6	1.3	22.6	30.3	45.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	266	2.6	4.5	25.9	36.1	30.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	173	0.0	4.6	29.5	27.7	38.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	0.0	0.0	26.0	36.0	38.0
	芸術の花開く都市展	35	0.0	8.6	25.7	22.9	42.9
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	22	0.0	0.0	31.8	36.4	31.8
経 年	平成 23 年度全体		0.0	2.8	27.1	31.8	38.3
	平成 22 年度全体		2.2	3.9	28.3	25.9	39.7
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	75	2.7	4.0	22.7	25.3	45.3
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	79	3.8	2.5	25.3	36.7	31.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	0.0	5.3	36.8	15.8	42.1

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が70.6%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の74.9%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が69.6%、『芸術の花開く都市展』が66.8%と、展覧会により差がみられた。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が70.1%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

**評価指標 24** 当館に関する情報が入手しやすいとする人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	69.6
	芸術の花開く都市展	66.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	74.9
経年	平成23年度全体	70.6
	平成22年度全体	69.4
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	75.5
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	66.9
	出会えます。あなたの愛する風景	65.9

単位：%

⑥-1 利用交通機関

全体

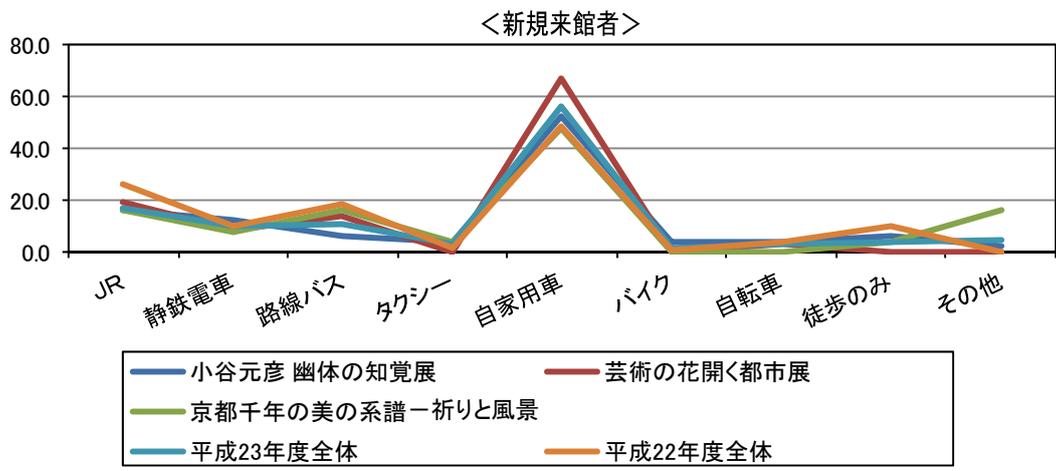
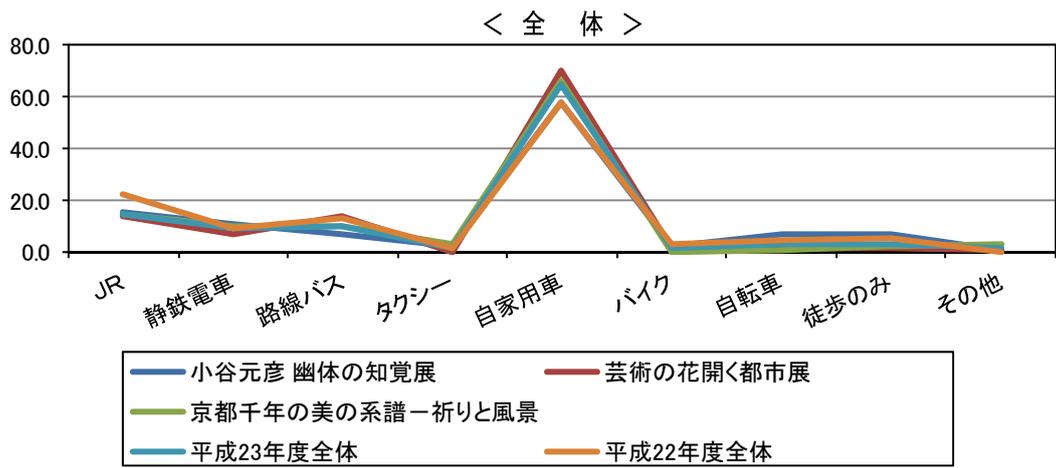
		件数 (件)	JR	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	247	15.4	10.9	6.5	2.0	57.9	2.0	6.5	6.5	0.4
	芸術の花開く都市展	222	13.5	6.8	14.0	0.0	70.3	1.4	1.8	1.4	0.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	240	14.6	9.6	10.0	3.3	66.3	0.0	0.8	2.1	2.9
経 年	平成 23 年度全体		14.5	9.2	10.0	1.8	64.6	1.1	3.1	3.4	1.3
	平成 22 年度全体		22.3	9.0	12.7	1.2	58.0	3.0	4.3	5.4	0.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	34.6	9.6	14.7	3.6	60.2	0.9	2.1	3.3	0.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	14.5	11.3	13.5	0.0	55.6	4.7	6.5	4.7	0.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	180	17.8	6.1	10.0	0.0	58.3	3.3	4.4	8.3	0.6

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	JR	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	16.0	12.0	6.0	4.0	52.0	4.0	4.0	6.0	2.0
	芸術の花開く都市展	36	19.4	8.3	13.9	0.0	66.7	0.0	2.8	0.0	0.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	16.0	8.0	16.0	4.0	48.0	0.0	0.0	4.0	16.0
経 年	平成 23 年度全体		17.1	9.9	10.8	2.7	55.9	1.8	2.7	3.6	4.5
	平成 22 年度全体		26.4	10.0	18.4	1.7	48.2	0.4	3.7	10.0	0.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	28.2	11.5	17.9	5.1	55.1	0.0	1.3	5.1	0.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	25.9	13.6	22.2	0.0	44.4	1.2	4.9	4.9	0.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	25.0	5.0	15.0	0.0	45.0	0.0	5.0	20.0	0.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成 23 年度は「自家用車」が 64.6%と最も高く、前年度、また、いずれの  
 展覧会も同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 23 年度は「自家用車」が 55.9%と最も多く、〈全体〉比較する  
 と少ないものの半数以上を占めている。

⑥-2 公共交通機関の利用はスムーズであったか

全体

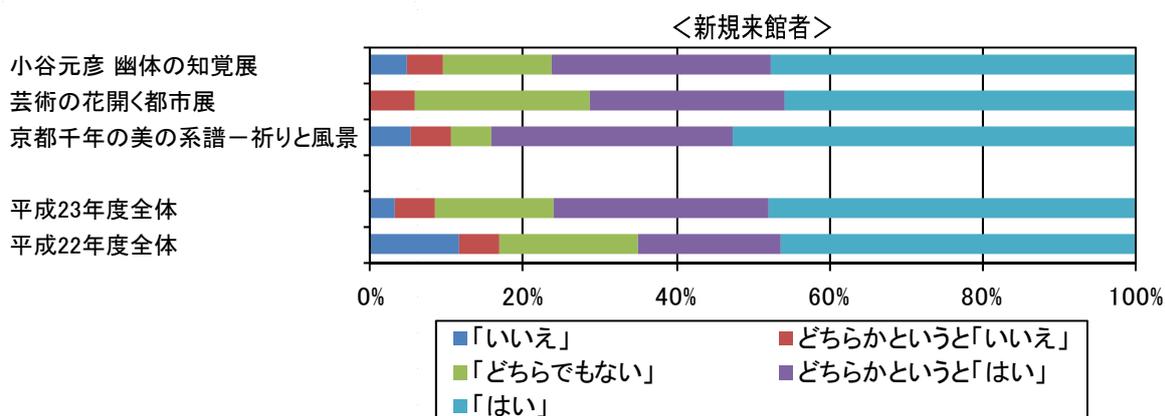
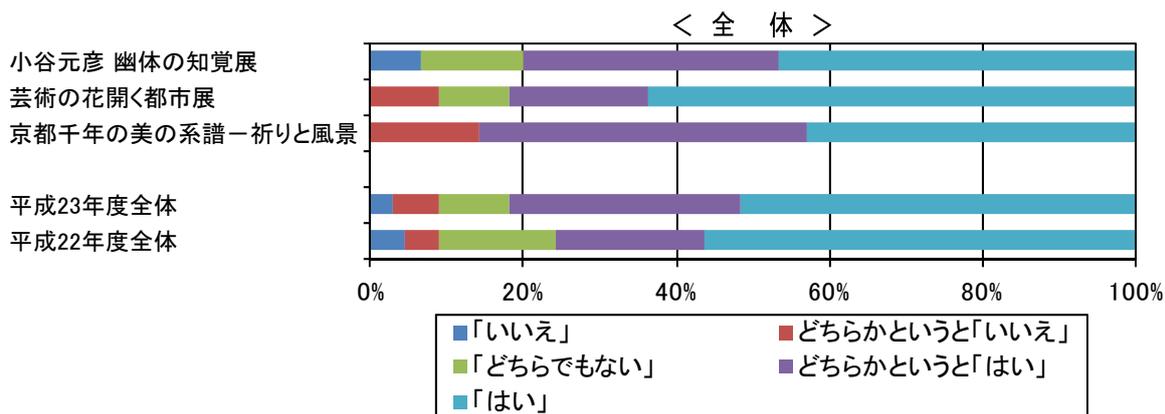
		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	15	6.7	0.0	13.3	33.3	46.7
	芸術の花開く都市展	11	0.0	9.1	9.1	18.2	63.6
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	7	0.0	14.3	0.0	42.9	42.9
経 年	平成 23 年度全体		3.0	6.1	9.1	30.3	51.5
	平成 22 年度全体		4.4	4.6	15.3	19.3	56.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	119	2.5	3.4	10.1	25.2	58.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	100	6.0	9.0	19.0	16.0	50.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	66	4.5	1.5	16.7	16.7	60.6

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6
経 年	平成 23 年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
	平成 22 年度全体		11.5	5.4	18.1	18.7	46.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	29	6.9	3.4	13.8	20.7	55.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	39	7.7	12.8	20.5	15.4	43.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	10	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が81.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の85.8%、次いで『芸術の花開く都市展』が81.8%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が80.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が76.0%で、〈全体〉より低くなっている。

**評価指標 35**

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

**美術館カルテ 26**

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	80.0
	芸術の花開く都市展	81.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	85.8
経年	平成23年度全体	81.8
	平成22年度全体	75.8
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	84.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	66.0
	出会えます。あなたの愛する風景	77.3

単位：%

⑥-3 自家用車の利用はスムーズであったか

全体

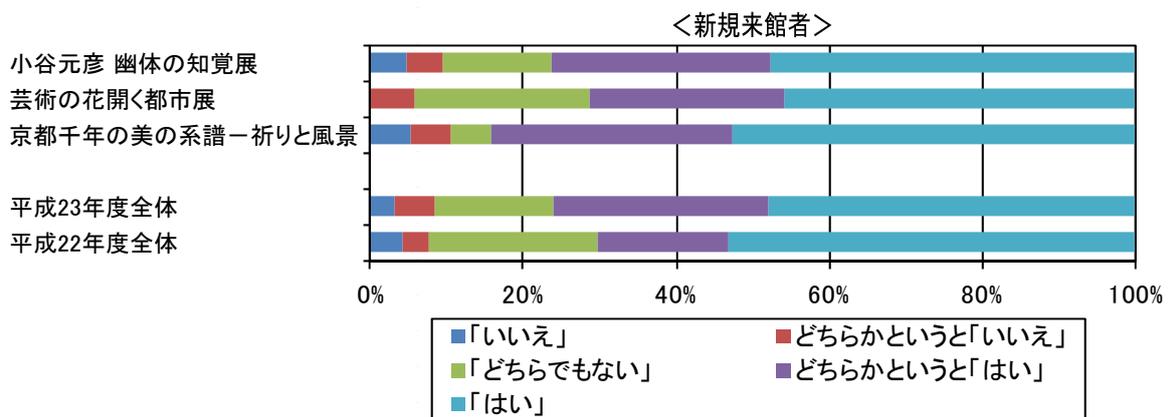
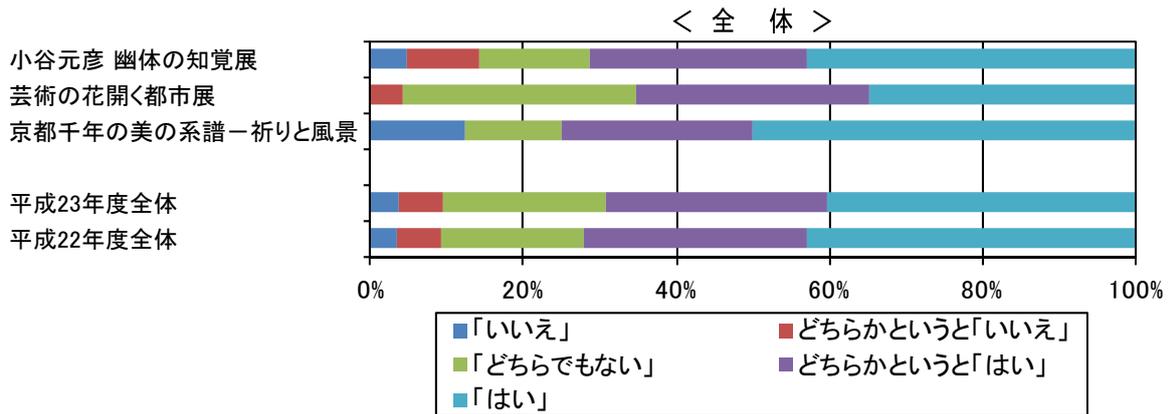
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	21	4.8	9.5	14.3	28.6	42.9
	芸術の花開く都市展	23	0.0	4.3	30.4	30.4	34.8
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	8	12.5	0.0	12.5	25.0	50.0
経 年	平成 23 年度全体		3.8	5.8	21.2	28.8	40.4
	平成 22 年度全体		3.5	5.7	18.7	29.1	42.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	142	3.5	5.6	14.8	28.9	47.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	123	4.1	5.7	17.9	35.0	37.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	68	2.9	5.9	23.5	23.5	44.1

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6
経 年	平成 23 年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
	平成 22 年度全体		4.3	3.3	22.1	17.2	53.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	33	9.1	6.1	27.3	18.2	39.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	27	3.7	3.7	22.2	33.3	37.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	6	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が69.2%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の75.0%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が71.5%、『芸術の花開く都市展』が65.2%と、展覧会により差がみられた。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が76.0%で、〈全体〉より高くなっている。

**評価指標 35**

自家用車で来館した人のアクセス満足度

**美術館カルテ 27**

自家用車で来館した人のアクセス満足度

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	71.5
	芸術の花開く都市展	65.2
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	75.0
経年	平成23年度全体	69.2
	平成22年度全体	72.0
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	76.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	72.4
	出会えます。あなたの愛する風景	67.6

単位：%

⑦全体的に見て、今回の来館は満足いただけたか（総合満足度）

全体

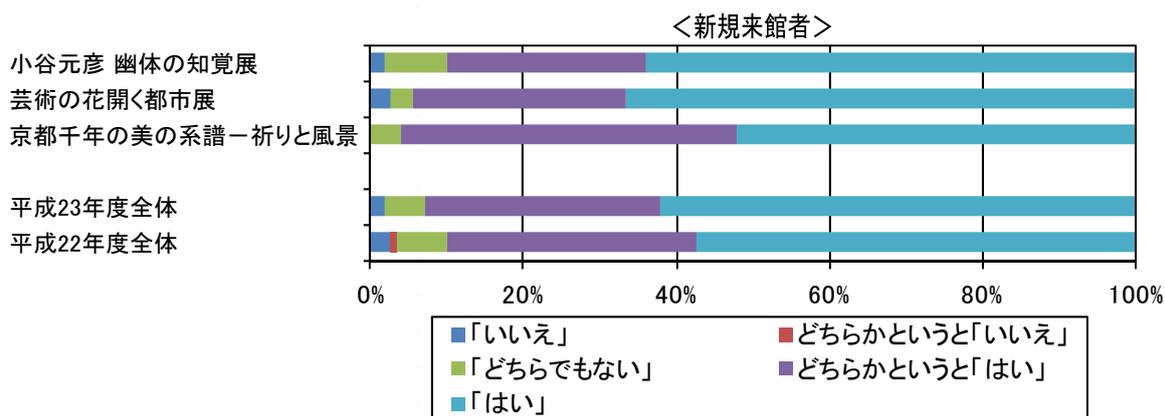
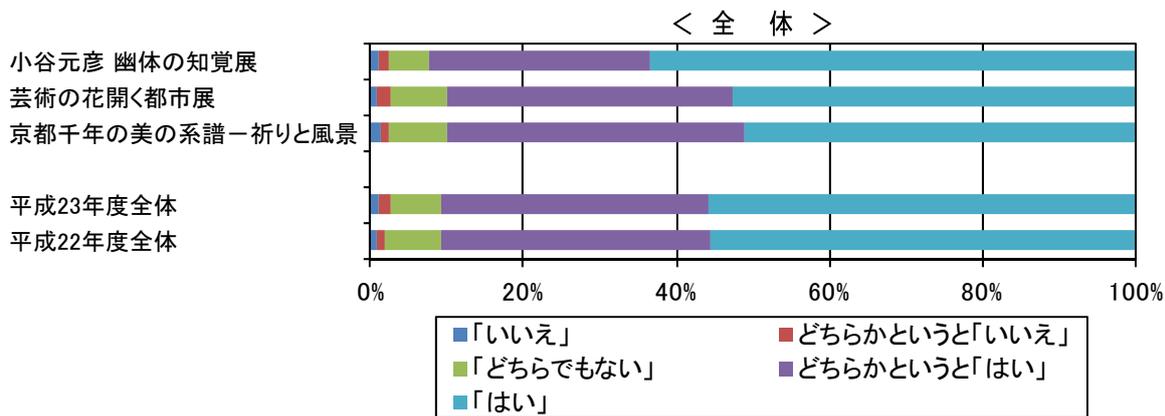
		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	246	1.2	1.2	5.3	28.9	63.4
	芸術の花開く都市展	220	0.9	1.8	7.3	37.3	52.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	237	1.3	1.3	7.6	38.8	51.1
経 年	平成 23 年度全体		1.1	1.4	6.7	34.9	55.9
	平成 22 年度全体		0.8	1.0	7.4	35.3	55.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	324	1.2	0.6	4.6	26.2	67.3
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	271	0.7	1.8	7.4	39.1	50.9
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.6	0.6	10.2	40.7	48.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	2.0	0.0	8.0	26.0	64.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	0.0	2.8	27.8	66.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	0.0	4.0	44.0	52.0
経 年	平成 23 年度全体		1.8	0.0	5.4	30.6	62.2
	平成 22 年度全体		2.6	0.9	6.5	32.7	57.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	75	1.3	2.7	8.0	25.3	62.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	80	1.3	0.0	6.3	41.3	51.3
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	5.3	0.0	5.3	31.6	57.9

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという」と「はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が92.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の96.0%、次いで『芸術の花開く都市展』が94.5%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が90.0%と、いずれも9割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が92.8%と〈全体〉と同様となっている。

**美術館カルテ5 展覧会の満足度**

**美術館カルテ52 展覧会における新規観覧者の満足度**

		展覧会の満足度	展覧会の満足度 (新規来館者)
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	92.3	90.0
	芸術の花開く都市展	90.0	94.5
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	89.9	96.0
経年	平成23年度全体	90.8	92.8
	平成22年度全体	90.8	90.0
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	93.5	88.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	90.0	92.5
	出会えます。あなたの愛する風景	88.7	89.5

単位：%

⑧「風景の美術館」であることを知っているか

全体

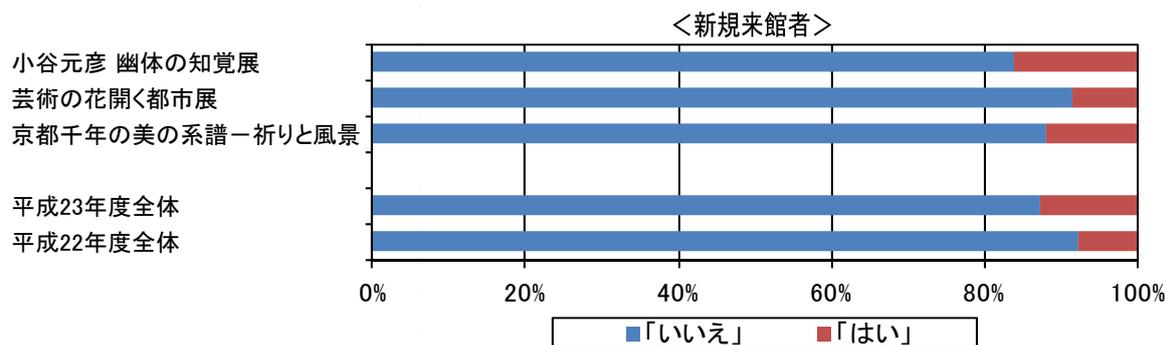
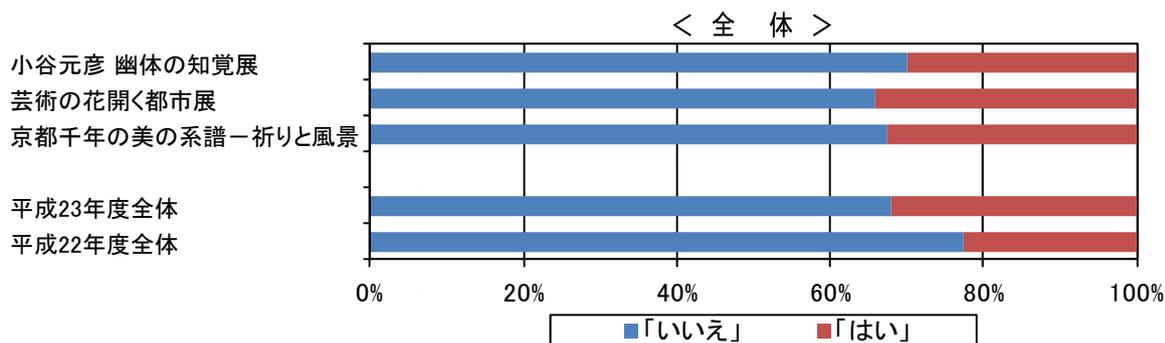
		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	243	70.0	30.0
	芸術の花開く都市展	213	65.7	34.3
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	234	67.5	32.5
経 年	平成 23 年度全体		67.8	32.2
	平成 22 年度全体		77.4	22.6
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	330	78.2	21.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	263	84.4	15.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	178	69.7	30.3

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	84.0	16.0
	芸術の花開く都市展	35	91.4	8.6
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	88.0	12.0
経 年	平成 23 年度全体		87.3	12.7
	平成 22 年度全体		92.2	7.8
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	77	93.5	6.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	77	93.5	6.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	89.5	10.5

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「はい」が32.2%と3割台となり、前年度を上回っている。  
 〈新規来館者〉をみると、平成23年度は「はい」が12.7%と、前年度の新規来館者に比べれば  
 増えているものの、〈全体〉と比較するとその半数以下となっている。

### 美術館カルテ 23 風景の美術館としての認知度

平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	30.0
	芸術の花開く都市展	34.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	32.5
経 年	平成23年度全体	32.2
	平成22年度全体	22.6
平成 22 年 度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	21.8
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	15.6
	出会えます。あなたの愛する風景	30.3

単位：%

## 4 レストランアンケート結果

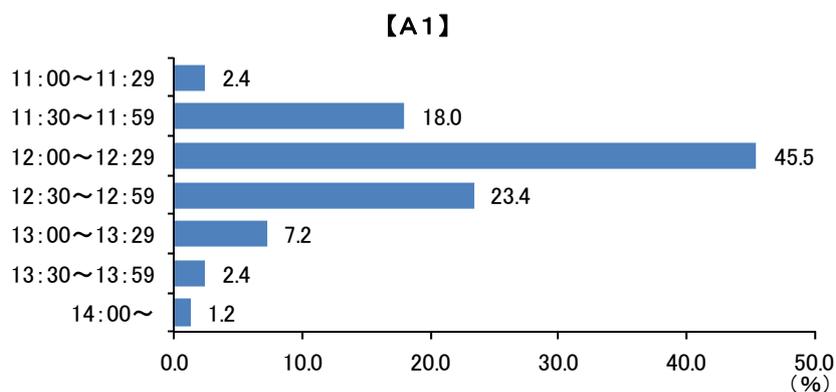
### (1) 実施数 (回答数)

小谷元彦 幽体の知覚展	51 件
芸術の花開く都市展	60 件
京都千年の美の系譜－祈りと風景	56 件
合計	167 件

### (2) アンケート結果

#### A 1 入店時刻

	全体	11:00～ 11:29	11:30～ 11:59	12:00～ 12:29	12:30～ 12:59	13:00～ 13:29	13:30～ 13:59	14:00～
回答数(件)	167	4	30	76	39	12	4	2
割合 (%)	100.0	2.4	18.0	45.5	23.4	7.2	2.4	1.2



#### A 2 注文内容

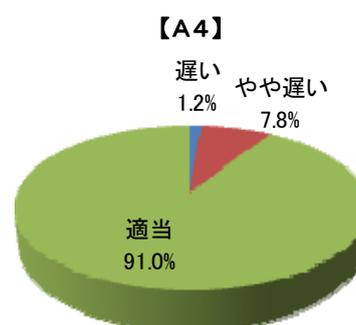
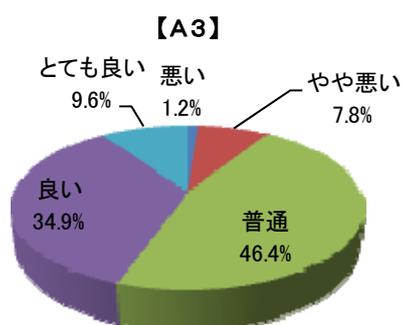
注文した料理	回答数(件)	注文した料理	回答数(件)
Aランチ	54	カレー	3
特別料理	32	牛ステーキとオムライス	3
Bランチ	23	ハヤシライス	2
ハンバーグ	13	お子様ランチ	1
パスタ	9	グリルした鶏肉	1
エビ・カニクリームコロッケプレート	7	ドリア	1
ランチ	6	ピラフ	1
ケーキ	5	ミネストローネ	1
牛ステーキ	4	駿河海鮮ランチ	1
オムライス	3		

### A 3 内容表示のわかりやすさ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	2	13	77	58	16
割合(%)	100.0	1.2	7.8	46.4	34.9	9.6

### A 4 席に案内するまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数(件)	167	2	13	152
割合(%)	100.0	1.2	7.8	91.0

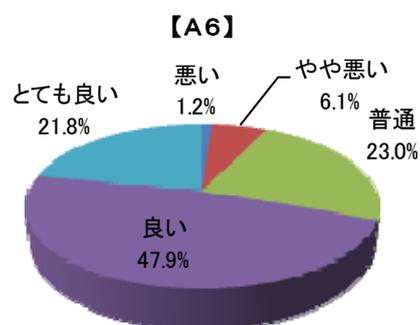
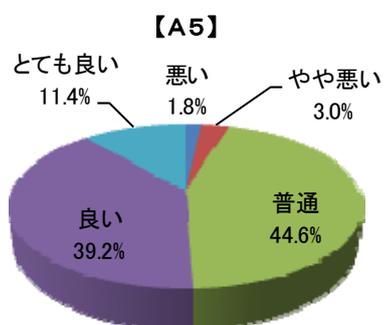


### A 5 メニューの種類

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	3	5	74	65	19
割合(%)	100.0	1.8	3.0	44.6	39.2	11.4

### A 6 味

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	165	2	10	38	79	36
割合(%)	100.0	1.2	6.1	23.0	47.9	21.8

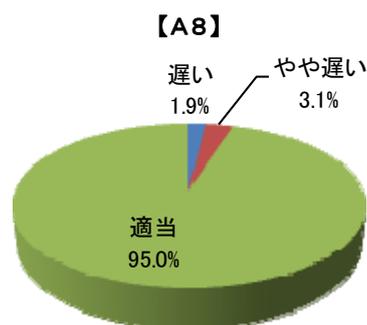
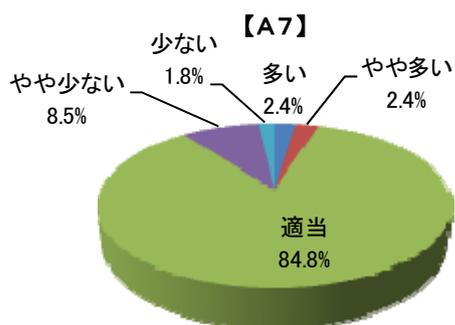


### A 7 量

	全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
回答数(件)	165	4	4	140	14	3
割合(%)	100.0	2.4	2.4	84.8	8.5	1.8

### A 8 料理が出るまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数(件)	160	3	5	152
割合(%)	100.0	1.9	3.1	95.0

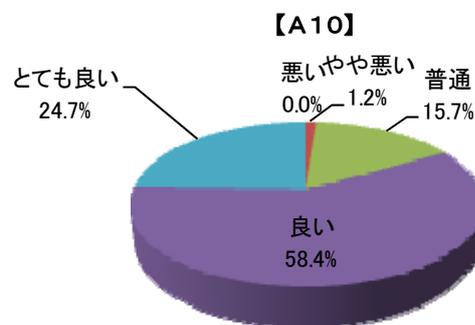
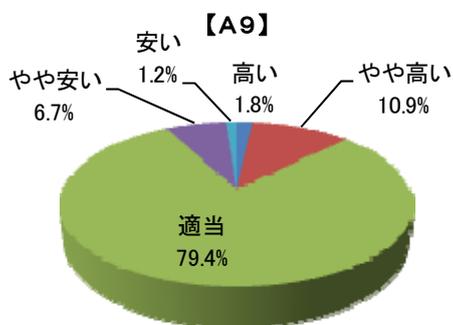


### A 9 値段

	全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
回答数(件)	165	3	18	131	11	2
割合(%)	100.0	1.8	10.9	79.4	6.7	1.2

### A 10 店の雰囲気、清潔さ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	0	2	26	97	41
割合(%)	100.0	0.0	1.2	15.7	58.4	24.7

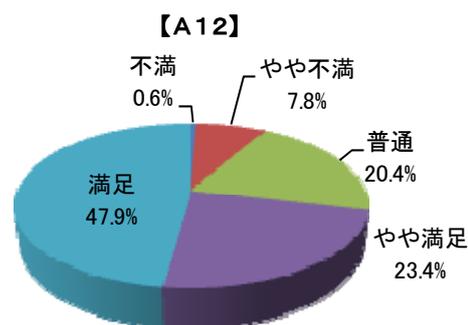
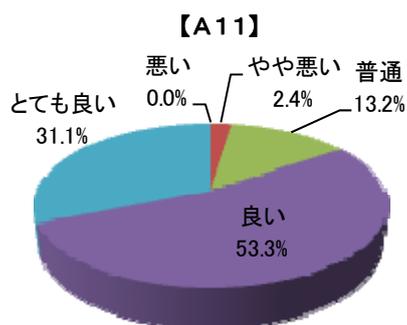


### A 1 1 従業員の言葉遣いや態度

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	167	0	4	22	89	52
割合(%)	100.0	0.0	2.4	13.2	53.3	31.1

### A 1 2 満足度

	全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
回答数(件)	167	1	13	34	39	80
割合(%)	100.0	0.6	7.8	20.4	23.4	47.9



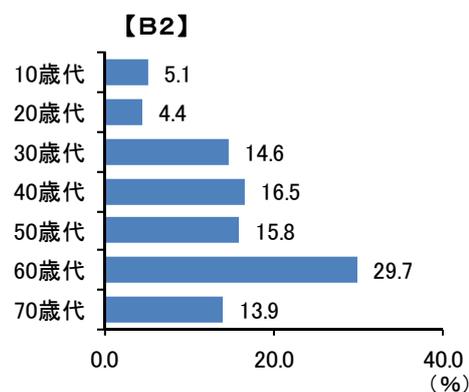
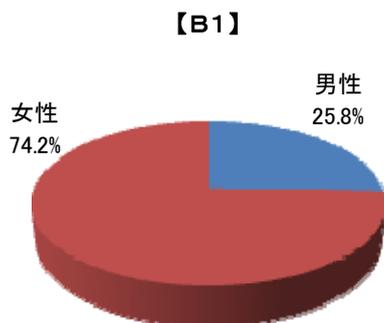
### A 1 3 不満や改善点 (略)

### B 1 性別

	全体	男性	女性
回答数(件)	155	40	115
割合(%)	100.0	25.8	74.2

### B 2 年齢

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
回答数(件)	158	8	7	23	26	25	47	22
割合(%)	100.0	5.1	4.4	14.6	16.5	15.8	29.7	13.9

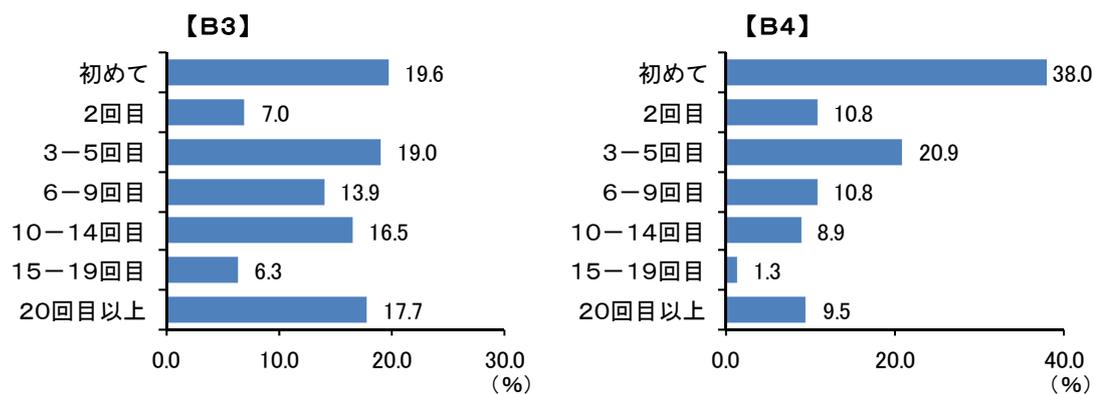


### B3 来館回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	158	31	11	30	22	26	10	28
割合(%)	100.0	19.6	7.0	19.0	13.9	16.5	6.3	17.7

### B4 レストランの利用回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	158	60	17	33	17	14	2	15
割合(%)	100.0	38.0	10.8	20.9	10.8	8.9	1.3	9.5



## 5 ミュージアム・ショップアンケート結果

### (1) 実施数 (回答数)

小谷元彦 幽体の知覚展	26 件
芸術の花開く都市展	63 件
京都千年の美の系譜－祈りと風景	67 件
合計	156 件

### (2) アンケート結果

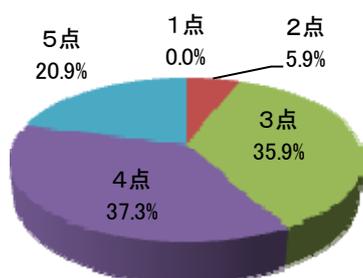
#### A 1 品揃えの充実

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	153	0	9	55	57	32
割合(%)	100.0	0.0	5.9	35.9	37.3	20.9

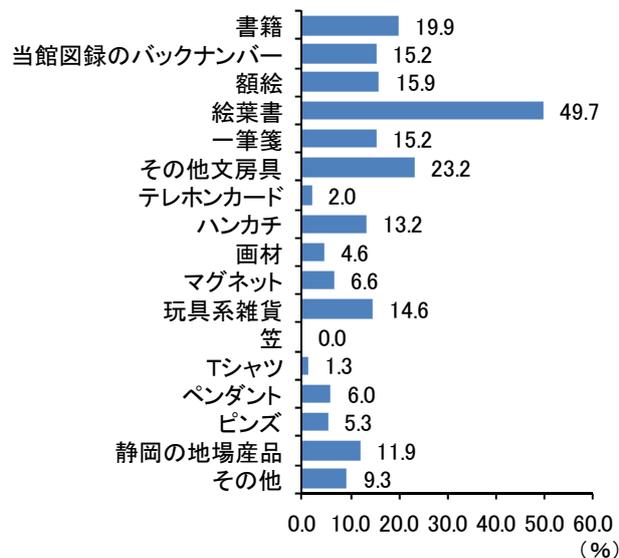
#### A 2 充実してほしい商品 (複数回答)

	全体	書籍	当館図録のバックナンバー	額絵	絵葉書	一筆箋	その他文房具	テレホンカード	ハンカチ
回答数(件)	151	30	23	24	75	23	35	3	20
割合(%)	100.0	19.9	15.2	15.9	49.7	15.2	23.2	2.0	13.2
	画材	マグネット	玩具系雑貨	笠	Tシャツ	ペンダント	ピンズ	静岡の地場産品	その他
回答数(件)	7	10	22	0	2	9	8	18	14
割合(%)	4.6	6.6	14.6	0.0	1.3	6.0	5.3	11.9	9.3

【アンケート数】



【A2】

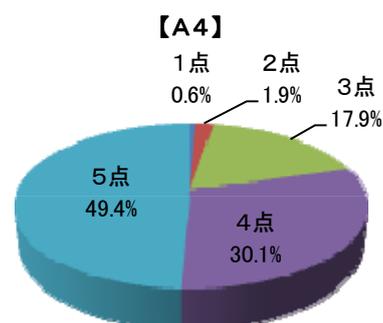
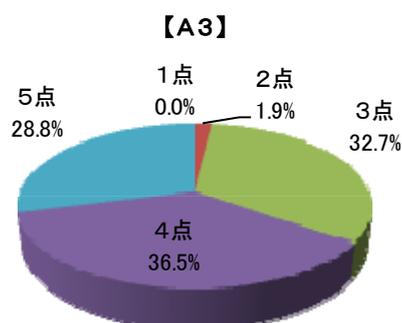


### A 3 価格は適当か

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも も言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	156	0	3	51	57	45
割合(%)	100.0	0.0	1.9	32.7	36.5	28.8

### A 4 従業員の対応

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも も言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	156	1	3	28	47	77
割合(%)	100.0	0.6	1.9	17.9	30.1	49.4

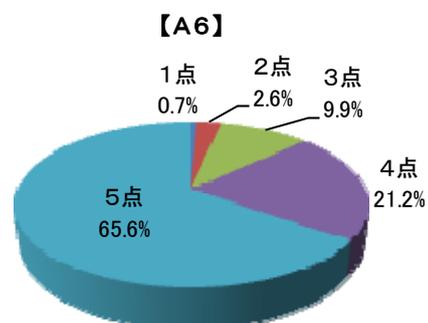
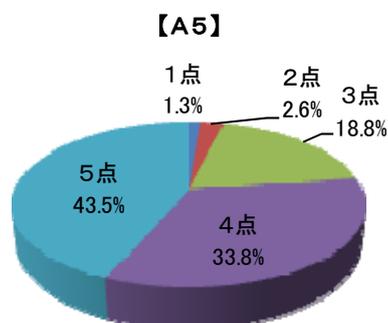


### A 5 静岡県立美術館にふさわしい雰囲気か

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも も言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	154	2	4	29	52	67
割合(%)	100.0	1.3	2.6	18.8	33.8	43.5

### A 6 次回も来店したいか(満足度)

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも も言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	151	1	4	15	32	99
割合(%)	100.0	0.7	2.6	9.9	21.2	65.6



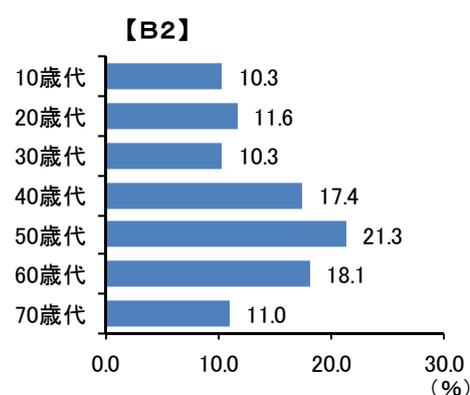
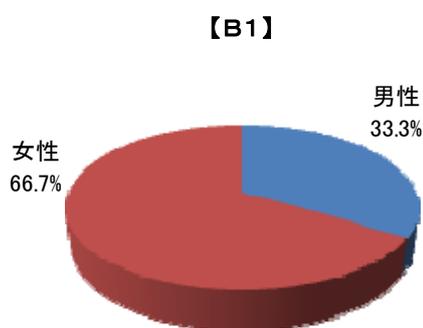
A 7 ご意見・ご感想（略）

B 1 性別

	全体	男性	女性
回答数(件)	156	52	104
割合(%)	100.0	33.3	66.7

B 2 年齢

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
回答数(件)	155	16	18	16	27	33	28	17
割合(%)	100.0	10.3	11.6	10.3	17.4	21.3	18.1	11.0

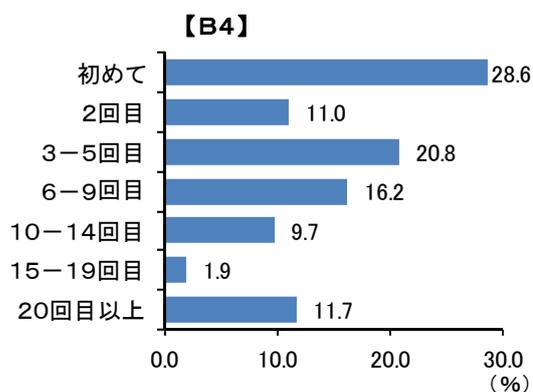
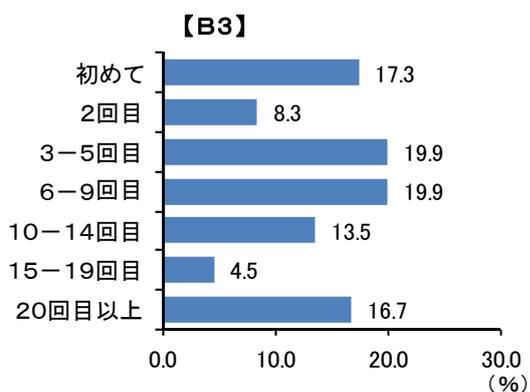


B 3 来館回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	156	27	13	31	31	21	7	26
割合(%)	100.0	17.3	8.3	19.9	19.9	13.5	4.5	16.7

B 4 ミュージアム・ショップの利用回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	154	44	17	32	25	15	3	18
割合(%)	100.0	28.6	11.0	20.8	16.2	9.7	1.9	11.7



## 6 美術館ホームページアンケート結果

### (1) 実施数 (回答数)

92 件

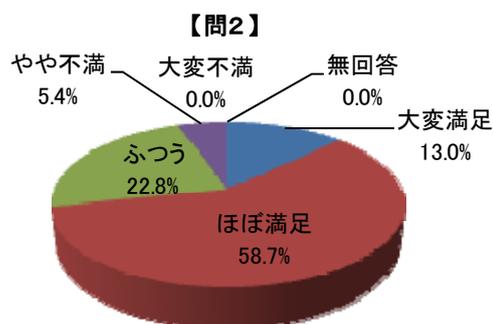
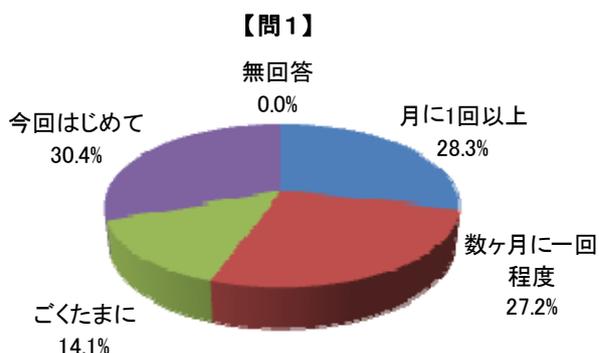
### (2) アンケート結果

#### 問1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか？

	全体	月に1回以上	数ヶ月に一回程度	ごくたまに	今回はじめて	無回答
回答数(件)	92	26	25	13	28	0
割合(%)	100.0	28.3	27.2	14.1	30.4	0.0

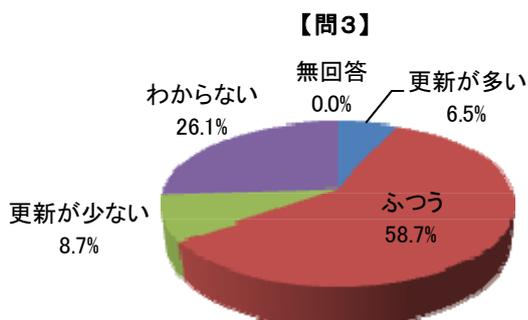
#### 問2. 当ホームページの情報内容について

	全体	大変満足	ほぼ満足	ふつう	やや不満	大変不満	無回答
回答数(件)	92	12	54	21	5	0	0
割合(%)	100.0	13.0	58.7	22.8	5.4	0.0	0.0



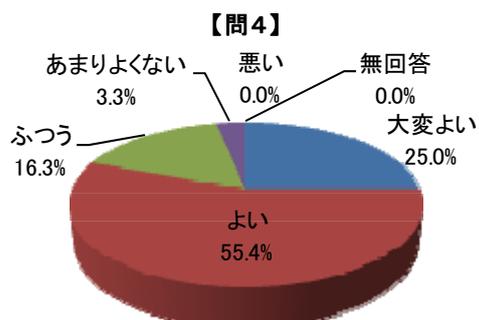
#### 問3. 当ホームページの更新頻度について

	全体	更新が多い	ふつう	更新が少ない	わからない	無回答
回答数(件)	92	6	54	8	24	0
割合(%)	100.0	6.5	58.7	8.7	26.1	0.0



#### 問4. 当ホームページのデザインについて

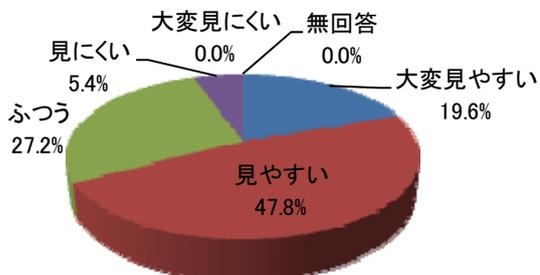
	全体	大変よい	よい	ふつう	あまりよくない	悪い	無回答
回答数(件)	92	23	51	15	3	0	0
割合(%)	100.0	25.0	55.4	16.3	3.3	0.0	0.0



問5. 当ホームページの見やすさについて

	全体	大変見やすい	見やすい	ふつう	見にくい	大変見にくい	無回答
回答数(件)	92	18	44	25	5	0	0
割合(%)	100.0	19.6	47.8	27.2	5.4	0.0	0.0

【問5】



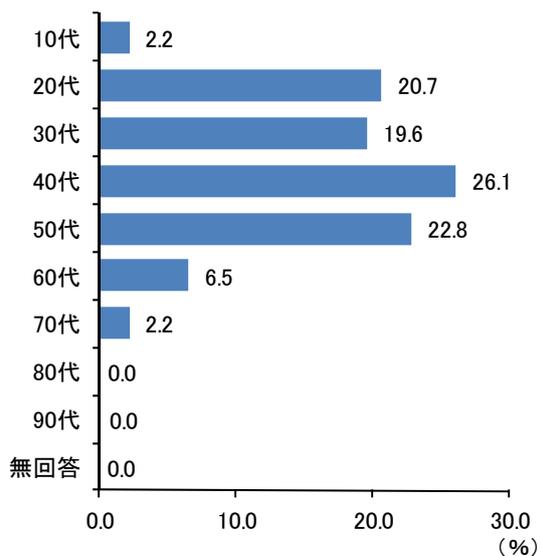
※1 年齢を選択してください。

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
回答数(件)	92	2	19	18	24	21	6	2	0	0	0
割合(%)	100.0	2.2	20.7	19.6	26.1	22.8	6.5	2.2	0.0	0.0	0.0

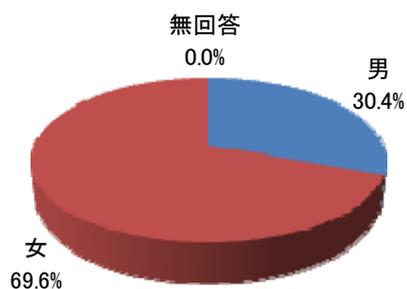
※2 性別

	全体	男	女	無回答
回答数(件)	92	28	64	0
割合(%)	100.0	30.4	69.6	0.0

【※1】



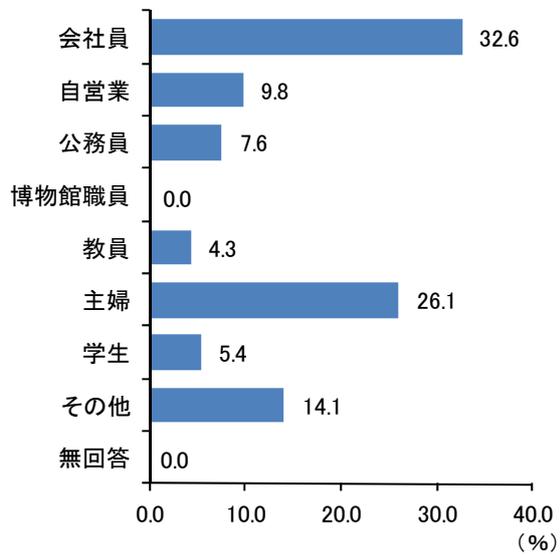
【※2】



※3 職業

	全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他	無回答
回答数(件)	92	30	9	7	0	4	24	5	13	0
割合(%)	100.0	32.6	9.8	7.6	0.0	4.3	26.1	5.4	14.1	0.0

【※3】



## 7 静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップに向けて

北海道大学 大学院文学研究科

佐々木 亨

今回、「静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップに向けて」と題し、平成 22 年度第三者評価委員会報告書を読んだ私なりの感想を含め、改善が必要なところをまとめてみました。改善への提案に際しては、私が昨年度から全国の公立ミュージアムで取り組んでいる評価活動を評価する活動と、今年の夏に受講した日本評価士学会の評価士講習経験を含めてお話ししたいと思います。

私が静岡県立美術館の評価に関わり始めたのは 2001 年で、ちょうど 10 年前のことになります。10 年目の今日こういった話をするので、当時は気付かなかったことや、やってみてはじめて反省すべき点がいくつか見えるのではないかと思います。

### 【PPT : p2 目次】

今日お話しする内容は大きく 4 つです。

一つ目に、今までの評価システム導入の経緯のこと。

二つ目に、全国のミュージアムの評価活動を評価するプロジェクトについて。

三つ目に、評価士資格講習での気づきについて。

四つ目に、まとめとしてどんな改善ができるのかへの提言をしたいと思います。

### 【PPT : p4~5 (1) 研究会として開始した準備期】

まず一番目に、今までの評価システム導入の経緯についてです。平成 13 年度に文部科学省の研究費で行う“評価を現場でする”という実験的取組みのパートナーを静岡県立美術館にお引き受けいただいたのが発端でした。今からちょうど 10 年前のことです。平成 13 年、14 年は手探りではあるものの評価指標の作成と現状値の測定を行いました。ところが、現状値の解釈は職員によってばらばらでした。結局、館の持っている使命や目指すべき目標の詳細がないために、職員による解釈にバラツキが出てしまうという問題点があったわけです。それを受けて、平成 15 年からは外部の評価委員会をつくって、館の使命や目標を整理しはじめます。

平成 13 年、14 年の二カ年間は研究会という位置付けで活動していましたが、当時のメンバーが共有していた意識は「入館者数と収支だけで美術館を評価するのはおかしい」というものでした。では、どんな評価指標が良いのかという主張はなかなかできませんでした。なので、まず「来館者数と収支」という 2 つの指標以外で美術館の価値を測れるものを作っていこうというのがこの時期の活動の中心だったような気がします。私も科研費で月に 1 度はここへ来てワーキングに参加しながら、指標作成や調査をいっしょにやってきました。

### 【PPT : p6 (2) 評価委員会によるシステム構築】

平成 15 年度に評価委員会が設置され、平成 16 年度には提言書をだしました。この提言書の中には、静岡県立美術館の使命や目標を見直したうえでの評価指標の例が示されました。提言書の中ではミュージアムナビと呼ばれたこれらのものは、現行の評価システムの原型になったと思います。

### 【PPT：p7（3）美術館によるシステム運用期】

平成17年度から、ミュージアムナビをベースにして一次評価である自己評価を開始しました。そして、平成18年度には二次評価として自己評価を評価する第三者評価委員会が発足しました。現在もその形が踏襲されていると思いますが、もう一度あらためて現行の評価システムがどういった柱から成り立っているかを平成22年度の評価報告書から整理してみます。

### 【PPT：p8～9（4）現行の評価システム】

まず、業績測定という手法をつかつての自己評価があります。これは、パフォーマンスメジャメントという評価指標を基本として数量を測り、それに対してレビューやレポートを加えたスタイルになっているかと思います。業績測定というものは指標をたくさん並べて、その数値が落ちないように維持する、もしくは数値が落ちてしまった時原因が何かを議論する、といったことに使われる手法です。この業績測定を行うためにあらゆる調査を行っているというのが、静岡県立美術館の現状だと思います。後ほどお話しますが、この業績測定は調査にコストがかかるという欠点を持っています。そして、第三者評価委員会による自己評価の評価としての二次評価、及び県庁の支援に対する一次評価を踏まえた改善に向けた提言という形で評価報告書ができあがっています。

私はこの5年ほど静岡県立美術館の評価システムに直接かかわっていない状況ですが、改めて報告書を見て、いくつかの問題点があると感じます。まず一つ目に、自己評価の構造が非常に複雑になっていること。美術館カルテがあって、評価指標群があって、館長公約と、構造がわかりにくいということがひとつ問題だと思います。二つ目に、県庁の支援体制において、実際の事業レベルでのアクションが少ないこと。他県に比べ、ここまで県のサポートが受けられていることは一定の評価ができます。しかし、県庁の総括ペーパーでは、当然参加すべき委員会や会議への参加報告や「～のように努めています」といった精神論でのコメントが目立ち、具体的なアクションという要素が少ないように思います。三つめは、第三者委員会の評価コメントに、根拠に乏しい思いつきの発言が目立つということ。例えば、「県西部や東部の利用者が10%台であるので、県内からの利用者を増やす仕掛けが大切である」とか、「スパック（静岡県舞台芸術センター）では、俳優が街まで来てパフォーマンスを行っている。美術館も何か新しい試みが求められる」、「新しい視点や切り口で、デザイン・建築・写真などの従来美術を超えるような方向性を積極的に打ち出したらどうか」などです。たしかにそれぞれひとつのアイデアですが、アクションやその目的につながる具体的なものが続いてこない。ある意味、一般来館者の感想と変わらないコメントが羅列されているといった感想を持ちました。なぜ、このようなコメントしか出ないのかと考えると、少なくとも報告書前半部分にも脈絡がないことが原因の一つだと思います。やはり、プロセスや行動指針として、「マーケティング調査の実施をしよう」とか「館のブランドをもう一度議論すべきだ」とか今後の活動を決める建設的な意見が評価委員会から出てしかるべきではないかと思います。現状のようなコメントが独り歩きすれば、かえって県庁や美術館職員が混乱してしまいます。四つ目は、現行の業績測定という手法がプロジェクト（事業）レベルの評価・改善に重点的なものだという点です。実は、プロジェクトの上にあるプログラム（使命・目標）レベルでの見直しが必要ではないかということです。各プロジェクトの評価という横並びの動きだけではなく、使命や目標からみる縦の流れをチェックする必要があるのではないかと思います。この報告書はそのような視点をもっていないと感じます。三つ目と、四つ目の問題点については、後ほど詳しくお話したいと思います。ここまでが、評価導入の経緯と平成22年度の評価報告書を読んだ私の意見です。

### 【PPT：p11（1）調査の枠組み】

二番目ですが、今、評価活動を評価するについて調査をしています。平成22年度、平成23年度を対象に、評価の導入や運用の実態をミュージアムに限らず公立の文化施設で行っています。例えば、図書館やホールも含まれています。この調査後、平成24年度、平成25年度で公立ミュージアム向けのパッケージを用意して施行することも考えています。

### 【PPT：p12（2）公立博物館の評価導入の状況】

この調査とは別に、日本博物館協会で評価導入の状況についてリサーチをしています。平成21年3月の報告書によれば、公立ミュージアムで評価の導入・立上が多いのは平成16年度～平成20年度です。ここでいう評価というのは、基本的に自己点検（評価）があって、プラス第三者評価があるところもあれば、ないところもあります。必ず自己点検（評価）という行為があることが条件となっています。導入の割合は、平成21年度の時点で自己点検（評価）が2割弱、プラス第三者評価があるところは全体の5%程度でした。ただ、この報告書では数値的な評価のみで、実際にその評価が経営にとってどれだけ有効なのか、どんな課題があるのかといった個々の実態はなかなかわかりませんでした。そこで、今回ヒアリングを実施して有効性や課題の部分明らかにすることを試みました。

### 【PPT：p13～15（3）調査対象と内容】

まず、自己評価または第三者評価を実施している、またはその導入に向けて検討しているようなところを対象としました。平成22年度は、12か所のミュージアムや財団法人、指定管理者としての財団法人へヒアリングしました。

具体的にはこの12館です（PPT：p14参照）。その下にある3館は、私がプロジェクトベースで関わったもので、これらからの情報も少し参考にして話します。どの館も活動開始は平成16年度から平成20年度の間になっている気がします。活動内容はいずれの館も自己点検（評価）は行っており、それに加えて第三者評価を行っているところが半分くらいありました。

ヒアリング内容は、一つ目は自己点検・第三者評価の概要及び今までの概要を簡単に抑え、二つ目にそのための予算や体制について聞きました。三つ目に、行政が実施する各種評価との整合性をどうとっているかということ。これは例えば、静岡県立美術館いうと、県からみれば美術館が一本の予算のたばになっていて、そういう各たば（事業）ごとに県庁独自で行政評価を行っている、といったように世の中には他にも評価があるわけです。それらとの整合性をどうとっているのか、もしくはそれとはまったく別にやっているのかということ聞いてみました。今日お話ししたいのは、次の2項目の結果です。四つ目として、評価導入によるメリット、もしくは評価がその館で果たしている本質的な役割について、そして最後に五つ目として、今後評価活動を続けていくためにどうしても解決しなければいけないことについて聞きました。

### 【PPT：p16～17（4）ヒアリング調査結果】

四つ目のヒアリング結果ですが、1つの館でかならず1つの答えというわけではないので、複数回答として考えてください。評価の捉え方で圧倒的に多かったのが「職員の意識を変える。気づきの場。」で、12館中7館が答えています。また似た回答で、「モチベーションを高める仕組み」というのが2館ありました。それともう一つ2件出た意見は「事業全体での仕事の位置付けが明確になる。仕事の意味を考える。」のに役立ったというものです。いずれも極めて内部的な話で、館内部で完結するような効果が圧倒的に多いといえます。

評価を継続するためにクリアすべき課題では、静岡県立美術館でも共通することがあるのでは

ないかと思えます。一番多かったのは、「適当な第三者評価委員がいない、または少ない。」です。また「〇〇さんがいなくなったあとどうするか。」という課題も3件ありました。これは、極めて少数の人間が評価に関わっていて、他のメンバーがなかなかそこへ参加していない実状からです。この一部に評価業務が集中している状態もクリアしていかなければ今後の活動継続は難しいと考えられています。三つ目と四つ目は類似しています。だんだんと「最初の意識が薄れてきて、活動自体がマンネリ化・形骸化」してしまう、また、毎年いろいろなバージョンが加わって「作業量が多く、仕組みが複雑すぎる」というものです。そして、「評価結果と予算・人事の議論が別物になっている」という意見も3件ありました。つまり、評価をしてどんなにいい結果がでて、それが予算にも人事にも反映されない、あくまで評価は館内で完結するもので、県庁の予算議論とはまったく異質物であるという問題です。この評価と予算・人事の平行線をクリアできれば意義も深まるというのがこの意見です。考察してみると、やはり評価の意味や位置付けというものが導入当時からかなり変化しているのではないかと思います。静岡県立美術館でも同じだったかと思いますが、当初は評価を経営改革のツールや納税者への説明責任として重視していたと思います。今でもその意識はある一方で、それよりも館職員の意識という部分に位置付けが変化しているのではないのでしょうか。

#### 【PPT：p18（5）考察】

ヒアリング調査結果でみてきた課題のうち、第三者評価委員の適性、個人に頼りすぎている評価活動、活動自体のマンネリ化・複雑化、そして予算や人事との連動は静岡県立美術館でも担当者がお感じになっていることかもしれません。この調査はまだ継続中で、現時点で結論はいえませんが、私としては、従来の評価の枠組みである自己点検と第三者評価という要素だけでは評価活動を適正にまわせないのではないかと思うようになりました。

#### 【PPT：p19（6）結論】

結論として、予算や人事とのリンクに挑戦すること、また、第三者評価委員に適当な方がいなければ、この委員の役割自体を見直す必要があるのではないかと思います。そして、組織として評価作業をまわしていくこと自体の見直し、つまり、そろそろ評価システム自体を見直し、リニューアルすることを真剣に考えて良い時期に来ているのではないかと感じます。ここまでが、2番目のセクションで、この1年半で行った調査の中間報告的なものです。

#### 【PPT：p21～22（1）ODA医療機関評価の現状】

次に三番目の、私がこの夏経験した評価士資格研修についてです。自分自身もいろいろな館に関わっておりますが、評価を体系的に勉強したことはありませんでした。この夏6日間、東京で研修を受けてきました。実際、40人くらいの方が参加しており、そのうち30人以上はODA（政府開発援助）か医療関係者でした。あとの残りは大学評価や行政評価のセクションにいる方が数名で、ミュージアム関係は私だけでした。この研修のなかで、ミュージアムの評価とちがってよく整理されている点が4つありました。一つは、いろいろな評価手法を体系化したスタイルを持っていて、どの手法を適用するかケースバイケースでアレンジしている点。例えば、ここに挙げたセオリー評価。これは、使命と目標とその下にある各プロジェクトのストーリー性をとらえて、評価する価値があるプロジェクトなのかをアセスメントする手法です。評価可能性アセスメントとも書かれています。そして、プロセス評価では、成果がでるまでの道筋や計画、アクションの進捗を時間を追いながらみていきます。インパクト評価というのは、対象実験のようなもので、ある事業を受けたグループと受けていないグループにおいてその影響力を比較するというもの。

両者に違いがなければ、事業の効果があつたとは言えず、厳密に事業成果を測る手法がこのインパクト評価です。最後に費用-効率性評価です。これはインプット、つまり投入した資源に対してアウトプットがどれくらい出たかという比率の議論です。道路や公園を作った時適用される手法です。二つ目として、多様な評価アプローチという点。インパクト評価のような実験的なものもあれば、静岡県立美術館でも行っているような業績測定もありますし、関係者みんなで議論しながら評価をすすめる参加型のアプローチもありました。三つ目は、評価結果の解釈のルール化という点です。資料の1はJICA（独立行政法人国際協力機構）の事業評価のレーティング・フローサンプルです。これはJICAの円借款事業を対象にした例です。JICAのプロジェクトは大抵、「1. 効果があつたか（妥当性）」、「2. 有効だったか（有効性）」、「3. 資金投入は効率的だったか（効率性）」、「4. 今後継続が可能か（継続性）」の大きく4つの指標に基づいて、極めてシステマチックに評価されていきます。例えば、第三者評価委員会の評価委員がレーティング・チャートに基づいて妥当性から検証していきます。妥当性において政策との整合性にCランクが付いた段階で、総合評価ではDランクとなってしまいます。総合評価Dは事業として残す意味がないという評価です。妥当性でAまたはBランクであれば、有効性を評価する段階に進みます。有効性でも残れば、効率性、継続性と評価が続き、最終的にABCで総合評価が行われます。ABCという評価方法は機械的で、美術館にはなじまないと思いますが、少なくとも政策と各プロジェクトとの整合性・妥当性から有効性、効率性、継続性と評価を落とし込んでいくプロセスがJICAでは定着しています。JICAの事例の下にあるDAC評価5項目というのがあります。ここでもJICAと類似した評価指標が定着し、フローチャートで評価できるようになっているそうです。これらのルール化で私が感心したのは、評価を行う人の倫理規定ができていているということです。これは第三者評価委員会にも適用できると考えます。そもそも評価というものは社会でどのような活動として位置付けられているのか、評価するときの心構え、スキルはどうあるべきか、ということが書かれています。4つ目としては、年間何百というプロジェクトをまわしているJICAのような組織には多様な評価事例が蓄積されているという点です。それにより、評価結果を評価することが可能になります。メタ評価という言い方をしますが、評価報告書をチェックするときのチェックリストができあがっています。

#### 【PPT：p23（2）「事業測定」の長所と短所】

美術館の話から少しそれてしまったので、話を戻すためにも先ほどの調査手法について詳しくみていきます。まず、事業実績測定についてです。実はこの評価には非常にはっきりとした短所と長所があることがわかりました。長所は、広範囲な事業を対象に評価できるという点です。一個一個の事業、静岡県立美術館でいうと展覧会、教育普及、ボランティア事業といったものを広範囲に扱うことができ、なおかつ毎年やっていくことで恒常的な評価もできます。広く浅くモニタリングすることで次の2つの効果が期待できます。1つ目は早期の警告です。満足度が低下すれば、何かおかしいと気づくことができます。2番目はアカウントビリティ、つまりわかりやすさです。数字に表せることで、納税者に対する説明責任という点で重要となります。静岡県立美術館のカルテは事業実績測定という面で有効でしょう。ただし、事業実績測定には欠点もあります。問題の真因をひとつ上の目標レベルで探ることができない点がそのひとつです。これはODAの事例ですが、例えば、発展途上国でより良い職業にいかにより多くの若者を就かせるかという目標があり、それを達成するためのプロジェクトとして職業訓練をすることになりました。主にはトレーニングと働くことへの動機づけ、また、求人面接のスキルを身につけることがプロジェクトの内容でした。結果としていずれの内容も満足度は非常に高かったのですが、もともとのより良い

職業に就くという目標は達成できませんでした。その国の構造をみていくと、雇用側の経営スキルが非常に貧弱で、そこに支援の手をいれなければ若者がより良い職業に就くことはできないというのが結論でした。個々のプロジェクトでは成果があがっているのに、目標が達成できないときは、やはり縦の関係をみていかなければならないという事例だと思います。もう一つの欠点は、広範囲で数字を取るためにコストがかかるという点です。

#### 【PPT：p 24～25（3）「セオリー評価」の重要性】

研修で、むだな評価報告書をつくらないためにまずやりなさいと言われたのがこの「セオリー評価」です。むだな評価報告書とは、プログラムとプロジェクト（事業レベル）とのストーリーの枠からはみ出した事業を評価したもののことです。これらを実際にもプログラムにはなんの影響もありません。プロジェクト（事業）を実現することで、上位のプログラムを達成できるストーリーが展開できているかどうかを調べるのがこのセオリー評価です。今までの事業測定では、横のつながりだけをずっと見ているんですが、本当にプログラムとの関係性が合っているのかどうかという縦のつながりもみましようというのがこのセオリー評価です。当然、このセオリーを考えたときには住民のニーズがそこにあるのかが重要な要素になってくると思います。静岡県立美術館の評価をみると、例えば、自己評価のA評価のところで「人々の感性を磨き、生活に変化をもたらす、魅力的な展覧会」というのが大きな目標レベルになっていて、チェックする項目は「新たな視点の工夫」とか「美術館と大学の連携をして企画力をアップする」とか「特長のあるコレクションの併設」がありますが、本当にそれらがセオリーとして成り立つのかというところを今一度チェックしてもよいのではないかと思います。

#### 【PPT：p 26（4）「インパクト評価」の重要性】

次に、インパクト評価です。資料3に図が載っています。本当にその事業に効果（影響力）があったのかを測定する手法です。ある事業が実施されたグループと実施されなかったグループによる純粋な効果比較をするものです。実際に、事業が実施されたグループの評価指標値から実施されなかったグループの評価指標値を引いて、そこに差があるかどうかを調べる手法です。大学院の学生が、自分たちのつくった博物館の展示コーナーで、インパクト評価を実際に行っています。展示コーナーにはその展示を説明した3分間の映像が設置してあるんですが、その映像制作にはコストも時間もかけられています。その映像が本当に展示をみる人に効果的かを実験しています。映像をみて、そこからどんな情報を得たかを書いてもらったり、インタビューしたりするグループと、映像を見せずに展示だけを見てもらったグループとで理解度がどれくらい違うかを100サンプルとって比較しています。実は、映像の効果はあまりないという結果が出そうで、であれば、その展示コーナーに置いた映像にそれほどインパクトはなかったということになります。このような対象実験がインパクト評価というものです。

#### 【PPT：p 28～33（1）現行評価システムの問題点とバージョンアップの方向性】

四番目の最後のセクションで、現行の評価システムのバージョンアップについて提言したいと思います。まず、現行の問題点として4つ挙げています。一つ目に、自己評価の構造が複雑であること。二つ目に、県庁の支援体制における事業アクション不足です。三つ目として、第三者委員会のあり方がこれでよいのかということ、四つ目として、業績測定をプロジェクトレベルで見ることに加え、ひとつ上の目標レベルからのセオリーを考えることです。一つ目と二つ目については、ここで提言といってもなかなか難しいので、三つ目と四つ目についてお話ししたいと思います。まず、第三者評価委員会のあり方についてですが、ここに参加型のアプローチを加えてみたらど

うでしょうか。例えば、特別展であれば、今まではアンケート調査をして集計・分析を行い、統計的な正しさを持って客観的な報告書ができあがるんですが、それよりも評価結果をもっと有効に使うというところに重点を置くことが参加型アプローチの特長だと思います。簡単な集計レベルの数値が出てきた段階で、担当の学芸員や課の職員、ミュージアムスタッフ、解説ボランティアなどがその情報を共有し、ワーキングをしながら次のアクションにつながる議論をして、その内容を報告書に盛り込む。現場の人たちが議論に加わることで、データを有効に使うことができると考えます。この中に評価委員も一緒にはいって議論に加わるという形は可能ではないかと思います。このように評価を手段として使えば、評価委員も含めたボランティアやミュージアムスタッフなどの評価事業に対する理解の促進もできますし、改革していこうという意思を維持することも可能だと思います。

もう一つの形として、これは実際にヒアリングした中で事例がいくつかあったものなのですが、第三者評価委員会がもっと主体的に評価の調査や項目検討に加わるというやり方です。例えば、東京都の写真美術館は、第三者評価委員が評価指標群を4年に1回検討して、必要があれば全部入れ替えたりしています。館側と委員会側が議論して、かなり大胆な決定の仕方をしています。最近注目されている、千代田区にある区立図書館の評議会では、前年度の数字を把握したなかで特に数値が低かったものについてピンポイントで徹底的に調査・評価するワーキングを立ち上げて、実際にワーキングメンバーが調査を行い評価レポートも書いています。業務としてはハードですが、確実に成果が上がります。ちなみに今年は、ネット上でサービスしている電子書籍の利用度に焦点を当てて取り組んでいるそうです。このような形を静岡県立美術館で実施するとすれば、過年度のデータから特にアクションが必要なものを決めて、第三者評価委員会で改善のアクション計画、その実行、効果の検証をすることは可能ではないかと思います。

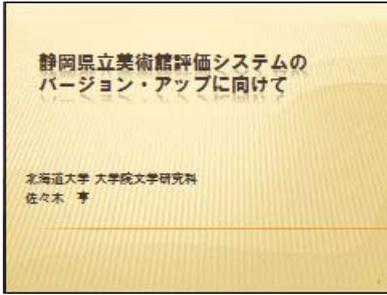
もう1つ、プログラムレベルからのプロジェクトの見直しをしてみましょう。今までの事業業績測定は同じひとつの視点から串刺しに数字をとっているという傾向が強いと思います。そうではなく、目標とのストーリーが成り立っている事業、本当にインパクトのある事業という視点でとらえ直し、効果に疑問があるものは縮小や中止を検討してもよいのではないかと思います。つまり、縦の目標レベルとの関係性で事業を整理していくことが必要ではないかと思いました。

#### 【PPT：p34（2）おわりに】

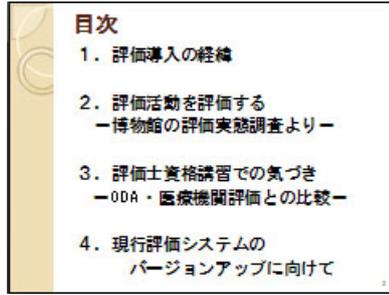
改めて、評価をすることで館内に活発な議論が起こっているかや、館職員が目標を共有できているのかなどを確認する必要があるのではないかと思います。評価はいろいろな気づきを生みだしてくれる道具で、そもそもなぜ評価をやるのかということは今一度確認してみたいと思います。もし、必要であれば現行評価の枠組みをリニューアルすることにも挑戦してもらいたいと思いました。4番目のセクションでのバージョンアップに向けた提言は、あくまで私個人の意見ですけれども、前半のヒアリング結果やODAの評価システムの事例はぜひ参考にさせていただきたいと思います。改善の道筋が見えるのではないかと感じました。

以上です。どうもありがとうございました。

PPT p 1



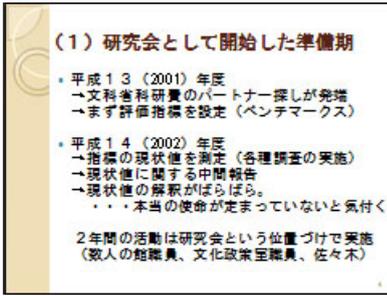
PPT p 2



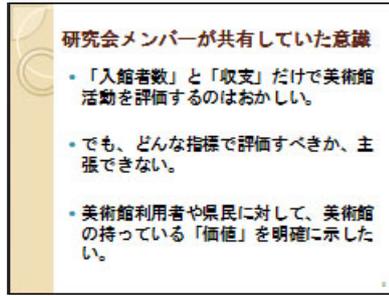
PPT p 3



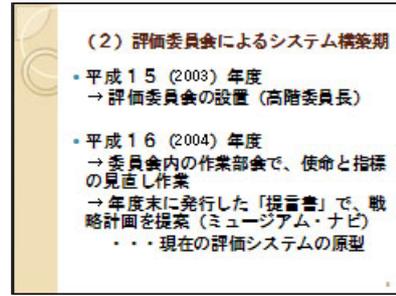
PPT p 4



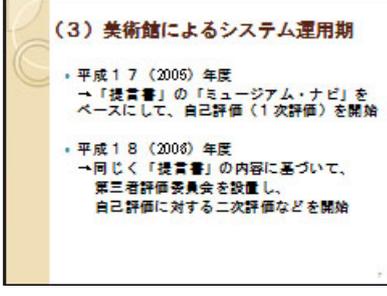
PPT p 5



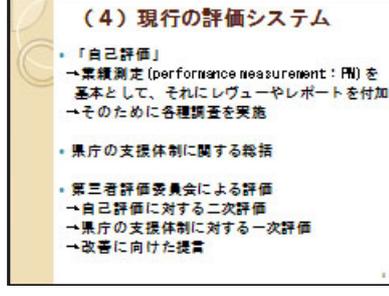
PPT p 6



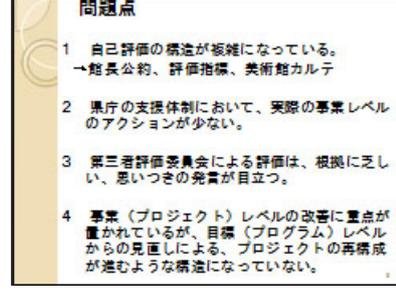
PPT p 7



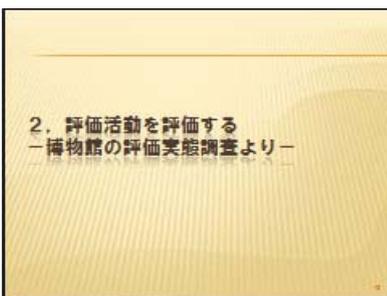
PPT p 8



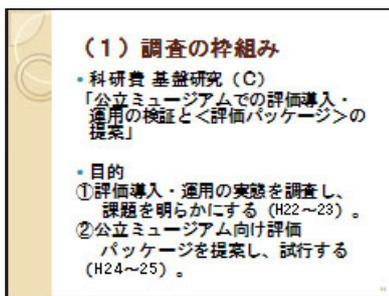
PPT p 9



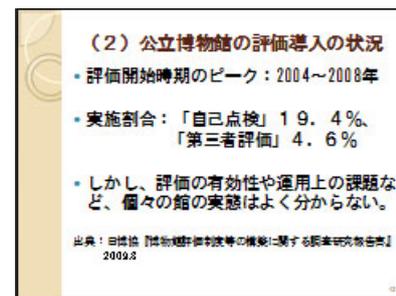
PPT p 10



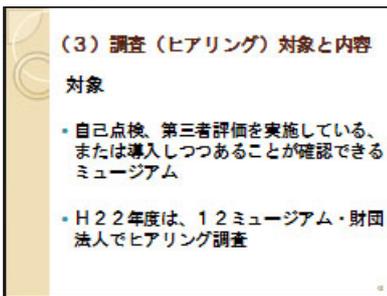
PPT p 11



PPT p 12



PPT p 13

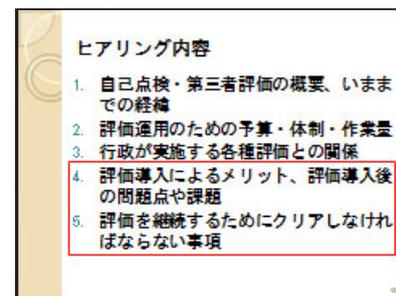


PPT p 14

調査対象	調査年度	調査方法
1 徳島県立歴史博物館	2009	自己点検
2 東京国立近代美術館	2004	自己点検
3 山形県立歴史博物館	2008	自己点検
4 山形県立博物館	2007	自己点検
5 徳島市立博物館	2004-2008	自己点検
6 徳島市立博物館	2002	自己点検
7 徳島市立博物館	2004	自己点検
8 徳島市立博物館	2010	自己点検
9 徳島市立博物館	2006	自己点検
10 徳島市立博物館	2005	自己点検
11 徳島市立博物館	2004	自己点検
12 徳島市立博物館	2004	自己点検
13 徳島市立博物館	2010	自己点検
14 徳島市立博物館	2007	自己点検
15 徳島市立博物館	2004	自己点検

※ 指定数値となる評価値  
自己点検、第三者評価

PPT p 15



### (4) ヒアリング調査結果

評価の捉え方

・ 評価の意義や位置づけ、評価導入当時からの変化について	7
・ モニタリング・継続的評価の現状	2
・ 評価活動の継続させるためにクリアすべき共通の課題がある	2
・ 適切な第三者評価委員がない	1
・ 評価活動を個人に頼りすぎる	1
・ 評価活動のマンネリ化・形式化	1
・ 作業量が多く、仕組みが複雑	1
・ 評価が予算・人事と連動していない	1

### 評価を継続するためにクリアすべき課題

・ 適切な第三者評価委員がない、または少ない	5
・ 口頭だけでなく書面での報告が必要	3
・ 資料の整理が滞りすぎて、評価準備がマンネリ化・形式化	3
・ 作業量が多く、仕組みが複雑すぎる	3
・ 評価結果と予算・人事の連動が弱まっている	3
・ 本来継続して見られていない	1
・ 評価活動に第三者委員の活用が乏しい	1
・ テーマの切り分け、評価結果の活用が使い分けが分らない	1
・ 評価結果を組織に活かす取組が乏しい	1
・ 評価結果をトップが使いこなせていない	1

### (5) 考察

1. 評価の意味や位置づけが、評価導入当時から変化してきている。
2. 評価活動を継続させるためにクリアすべき共通の課題がある。
  - ・ 適切な第三者評価委員がない。
  - ・ 評価活動を個人に頼りすぎる。
  - ・ 評価活動のマンネリ化・形式化。作業量が多く、仕組みが複雑。
  - ・ 評価が予算・人事と連動していない。

### (6) 結論

- ・ 従来の「評価の枠組み」
- ・ 評価指標
- ・ 評価の組み合わせ（自己+第三者）だけでは、この活動はうまく回らない。
- ・ 予算・人事とのリンクに挑戦
- ・ 第三者評価委員の発掘・育成 または同委員会の役割見直し
- ・ 評価作業を組織として運用
- ・ 評価システム自体の評価とリニューアル

### 3. 評価士資格講習での気づき

—ODA・医療機関評価との比較—

### (1) ODA・医療機関評価の現状

- ・ 多様な評価手法の存在
  - ・ セオリー評価（評価可能性アセス）
  - ・ プロセス評価
  - ・ インパクト評価
  - ・ 費用-効率性評価 など
- ・ 多様な評価アプローチの活用
  - ・ 実験デザイン・アプローチ
  - ・ 業績測定（PM）アプローチ
  - ・ 参加型アプローチ（利害関係者の参加）

- ・ 評価結果の解釈のルール化
- ・ JICAの事例<資料1>
  - 妥当性・有効性・効率性・持続性
- ・ DAC評価5項目
  - 妥当性・目標達成度・有効性・効率性・自立発展性
- ・ 倫理規定
- ・ 多様な評価事例
- ・ メタ評価（評価結果を評価する）
- ・ チェックリスト<資料2>の存在

### (2) 「業績測定」の長所と短所

- ・ 長所：
  - 事後評価、広範な評価対象（「プロジェクト」レベル）、恒常的に実施
  - 広く深くモニタリングし、「早期の警告」と「アカウンタビリティ」を行うのが重要な役割
- ・ 短所：
  - ・ 「プログラム」レベルから見ないと、問題点の原因が分からない。
  - ・ 現状値の収集にコストがかかる。

### (3) 「セオリー評価」の重要性

無駄な評価報告書を作らないために

- ・ すべてのプログラムは、目標を有する。
- ・ 事業（プロジェクト）は、プログラムの目標の達成のための手段であり、両者は連続している。
- ・ セオリーは、原因（手段）と結果（目標）の関係性についての「仮説」である。
- ・ この「仮説」がうまく機能しているかどうかをチェックするのが、セオリー評価。

### (4) 「インパクト評価」の重要性

本当に、その事業に効果があったのか？

- ・ ある事業が実施されたグループと実施されなかったグループにおける「純効果」を測定する評価
- ・ 純効果 = 実施グループの成果指標値
  - 比較グループの成果指標値
  - 外部要因による影響値
  - 評価デザインによる影響値
- ・ 手法：ランダム実験モデル <資料3>

### 4. 現行評価システムのバージョンアップに向けて

### (1) 現行評価システムの問題点とバージョンアップの方向性

問題点

- 1 自己評価の構造が複雑
- 2 県庁の支援体制における事業アクション不足
- 3 第三者評価委員会のあり方の見直し
- 4 目標（プログラム）レベルからの事業（プロジェクト）の見直し・再構築

### <3 第三者評価委員会のあり方の見直し>

(a) 参加型アプローチの検討

- ・ 例えば、特別版であれば、
  - 担当学委員、総務課職員、ミュージスタッフ、解説ボランティアの4者による、評価データの共有とWGの開催
- ・ 評価結果の正しさ（客観性）よりも、評価結果の活用（有用性）を重視
- ・ 評価を手段として、メンバーの理解促進、エンパワーメントを目指す。

(b) 評価項目を第三者評価委員会が主体的に検討

- ・ 例えば、東京都写真美術館では、第三者評価委員会が指標群を検討し、決定する。
- ・ 千代田図書館では、評価指標の前年度の現状値を見た上で、図書館評議会が重点的に評価する事業を選定する。
  - 評議会のWG（3名）が評価のための調査も実施

PPT p 31

もし、静岡県美で (b) を実施するならば

- 特定の事業を評価対象  
→ 例えば、年間一つの特別展
- 過年度データより、事前に課題を予見
- その課題に対して、具体的な改善アクションを計画し、実行
- その効果を測るための調査を評価委員が企画し、調査結果を評価する。

PPT p 32

< 4 目標 (プログラム) レベルからの事業 (プロジェクト) の見直し・再構築 >

- インパクト評価による各事業の整理
- セオリー評価による、「プログラム-プロジェクト」ツリーの見直し

PPT p 33

事業の見直し

先行の経路: すべての事業を同じ視点で評価 (数方向の赤い線)

目標プログラム

事業プロジェクト

セオリー評価

インパクト評価

経路の見直し: まず、事業のインパクトを評価。併せて、新たに数方向(青い線)のセオリーを設定。インパクトが少なく、セオリーから外れる事業を中止・縮小。また、新規事業も検討

PPT p 34

(2) おわりに:

評価活動を持続可能にするために  
評価活動を始めた当時の思いに立ち返ってみる。

- 美術館職員が活発に議論しているか。
- 美術館職員が評価の目的を共有しているか。

→ 目的を共有できる「評価の枠組み」にリニューアルする。